

平成14(2002)年度

福岡市埋蔵文化財センター一年報

第22号



2004

福岡市教育委員会

序

古来から対外交渉の門戸として栄えた福岡市は、950箇所強の遺跡が所在しています。これらの遺跡の中で、板付遺跡や元寇防塁など一部の遺跡は国の史跡として、保存、整備を行い広く市民に公開しています。また、都市基盤整備や宅地開発などでやむを得ず消滅する遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努め、平成14年度も62箇所の発掘調査を実施しています。

埋蔵文化財センターは、発掘調査で出土した遺物や記録類を体系的に収蔵・管理し、多くの市民に活用していただくために、昭和57年2月に開館しました。開館以来2度にわたって増改築を行い、収蔵庫、展示室、保存処理などの拡充や公開講座の充実に努めてまいりました。

平成14年度は、新たに66件の調査分を収蔵し、累計で1,026件の調査分を本収蔵しています。これらの資料を広く市民の方々に利用していただくよう努めてまいりますので、今後とも関係各位のなおいっそうのご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年3月25日

福岡市教育委員会 教育長 生 田 征 生

目 次

I 平成14(2002)年度の活動	1
1. 資料の収蔵・整理	1
2. 保存処理	6
3. DNA “おもしろ探検隊” の概要	24
4. 教育普及活動	25
5. 入館者数	33
6. 平成14年度当初予算	33
II 埋蔵文化財センターの概要	34
1. 組織と職員	34
2. 施設	34
付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等	36
付2 平成14年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書一覧	裏表紙見返し

例 言

1. 本書は平成14年度(2002年4月1日～2003年3月31日)の福岡市埋蔵文化財センターの業務年報である。
2. 本書の作成は、所長山口譲治の統括のもと、内田寿生、常松幹雄、瀧本正志、比佐陽一郎、片多雅樹が執筆した。

※表紙写真は特異な文様のある甕(雀居遺跡第12次調査出土)

I 平成14(2002)年度の活動

1. 資料の収蔵・整理

(1) 収蔵方針

昭和44(1969)年の文化課発足以来、市内における緊急調査や史跡整備に伴う確認調査などで得られた出土品および写真・図面等の記録類は膨大な数量に及んでいる。これら考古資料の保存と活用をはかり、市民文化の向上に資するために、昭和57(1982)年、福岡市埋蔵文化財センター(以下、センターとよぶ)が設立された。

現在、福岡市の文化財行政は教育委員会文化財部(組織はⅡ-1章参照)の所管にある。このうち埋蔵文化財の発掘調査は埋蔵文化財課、大規模事業等担当課、鴻臚館跡担当課が常時実施している。このほか文化財整備課も史跡整備や現状変更に伴う発掘調査を必要に応じて行っている。これらの発掘調査で出土した考古資料は、埋蔵文化財課では市内3ヶ所の整理事務所で、また大規模と鴻臚館ではそれぞれの調査事務所で整理作業を行い、報告書を作成している。当センターは、発掘事業は行わず、報告書が刊行された考古資料を発掘事業担当課から受入れて収蔵し、管理することを事業の柱のひとつとしている。

このように発掘調査で得られた考古資料は、速やかに一般公開され、広く市民や研究者に活用されることが望ましい。このため文化財部では発掘調査、整理、収蔵の一連の作業を円滑に行い、考古資料の多用で迅速な活用をはかるため、昭和60(1985)年に「埋蔵文化財資料の収蔵整理要項」(『福岡市埋蔵文化財センター年報』第5号1985所収)を策定した。この要項はその後、実状にあわせ細部を改変したが、今日まで要項基準にそった発掘調査記録と整理作業が実施されている。センターへの考古資料の収蔵も円滑なものとなっており、また収蔵された考古

資料の活用も年々増加している(Ⅰ-4章参照)。

膨大な量にのぼる考古資料を収蔵するため、センターは開館以来二度にわたって増改築を行った(Ⅱ-2章参照)。平成10年度の増築・改造で一般収蔵庫は1,953㎡の増床となり(全体で4,066㎡)、今後の出土品の増加を見込んで、平成11年度から約15年間の収蔵スペースが確保できた。また、現在3階建の収蔵庫部分は、将来5階までの増築が可能な構造となっている。

(2) 平成14年度の本収蔵

センターに本収蔵されている考古資料は、発掘事業担当課が報告書刊行後要項に沿った整理作業を行い搬入・収蔵したもの(埋文課と表記)と、要項策定以前に発掘調査が行われ仮収蔵されていた資料をセンターで要項に沿って整理したうえ収蔵したもの(センターと表記)とに区分している。

平成14年度の本収蔵は、埋文課・鴻臚館から搬入・収蔵されたもの56遺跡、センターで収蔵したもの10遺跡のあわせて66遺跡である。主な収蔵品は遺物がコンテナ4,129箱と甕棺114個(コンテナ換算する場合は甕棺1個を12箱とする)、写真類が32,598点、図面類が6,015点、写真カードが6,964枚である(表2)。

出土品のうち土器・石器は一般収蔵庫、金属器・木製品・玉類は特別収蔵庫で収納している。また記録類の中、写真類は第1記録類収蔵庫、図面類は第2記録収蔵庫、写真カードは第1資料整理室へそれぞれ納めている。

平成14年度までにセンターに本収蔵されたのは994の発掘調査資料(追加収蔵まで含めた収蔵数は1,026件)で、その内訳は登録遺物603,780点、甕棺1,174個、コンテナ66,819箱、ネガフィルム249,492点、スライドフィルム

292,902点、図面類108,554枚、写真カード135,697枚となっている(表1)。平成14年度までの市内での発掘調査は1,759遺跡であり、そのうちの994遺跡、全体の約57%が本収蔵され、検索が可能となった。

なお、本収蔵された資料についても、再調査や本収蔵の過程で生じた追加や登録漏れが認められることがある。遺物や記録類の数については随時、訂正をおこなう。

(3) ポジカラーフィルムのCD化

収蔵されているポジカラーフィルムには年月の推移とともに、褪色・劣化が著しいものがあり、平成12年度よりCD化を行い現状保存をはかっている。3年目の今年は1984年から89年にかけての212の調査について、フォトCDとして委託製作した(表3)。

CD化にあたっては35mmを主な対象とし、報告書に用いられたカットとその他の必要なカットを遺跡調査番号ごとに選択した。

表1 本収蔵数一覧(1986~2001年度)

年度	収蔵区分	新規遺跡数	追加遺跡数	登録遺物点数	遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード
					壺数	コンテナ数	35mm(本)	6×7(マ)	4×5(枚)	35mm(マ)	6×7(マ)	4×5(枚)	遺構	遺物	
1986	埋文課	4	0	3,639	0	749	57	1,397	7	1,358	163	0	352	239	781
	センター	14	0	4,475	0	309	343	1,844	169	3,736	386	96	617	512	1,564
	年度合計	18	0	8,114	0	1,058	400	3,241	176	5,094	549	96	969	751	2,345
1987	埋文課	12	0	8,860	3	779	284	4,051	8	2,931	373	0	994	1,223	2,744
	センター	9	0	2,631	1	217	229	2,327	80	3,121	254	2	427	290	1,630
	年度合計	21	0	11,491	4	996	513	6,378	88	6,052	627	2	1,421	1,513	4,374
1988	埋文課	38	1	15,193	61	1,152	560	8,566	10	6,694	647	0	1,784	1,789	5,074
	センター	5	0	11,301	72	740	331	4,342	137	4,848	13	0	888	1,141	2,994
	年度合計	43	1	26,494	133	1,892	891	12,908	147	11,542	660	0	2,672	2,930	8,068
1989	埋文課	11	0	16,380	6	1,121	231	7,507	99	4,634	966	63	1,612	1,619	2,343
	センター	3	0	6,701	0	868	155	3,559	92	2,906	0	0	105	418	2,090
	年度合計	14	0	23,081	6	1,989	386	11,066	191	7,540	966	63	1,717	2,037	4,433
1990	埋文課	60	0	43,807	29	2,214	1,460	17,561	712	19,235	2,405	76	3,173	3,277	9,563
	センター	30	0	11,096	3	766	311	3,073	0	4,714	496	8	723	955	1,924
	年度合計	90	0	54,903	32	2,980	1,771	20,634	712	23,949	2,901	84	3,896	4,232	11,487
1991	埋文課	57	0	32,480	32	3,028	599	10,974	45	9,051	1,095	67	2,435	2,352	6,075
	センター	6	0	4,586	65	724	395	3,303	86	3,541	811	45	666	865	1,856
	年度合計	63	0	37,066	97	3,752	994	14,277	131	12,592	1,906	112	3,101	3,417	7,931
1992	埋文課	74	4	33,934	78	3,449	760	12,820	12	12,490	1,618	25	3,505	3,092	6,972
	センター	13	2	8,046	30	1,287	284	3,006	19	3,141	176	8	558	985	1,950
	年度合計	87	6	41,980	108	4,736	1,044	15,826	31	15,631	1,794	33	4,063	4,077	8,922
1993	埋文課	52	0	28,850	26	4,355	711	21,093	38	12,410	2,949	17	2,858	2,811	11,587
	センター	6	0	6,034	7	1,118	237	22	463	2,123	0	26	308	156	654
	年度合計	58	0	34,884	33	5,473	948	21,115	501	14,533	2,949	43	3,166	2,967	12,241
1994	埋文課	40	1	17,817	118	1,570	472	8,556	0	7,680	1,751	4	1,936	2,068	4,797
	センター	9	0	7,285	3	984	151	1,026	125	2,619	68	11	560	427	985
	年度合計	49	1	25,102	121	2,554	623	9,582	125	10,299	1,819	15	2,496	2,495	5,782
1995	埋文課	57	1	40,565	37	4,229	675	12,851	257	10,564	3,035	238	2,519	3,354	7,581
	センター	13	0	5,854	9	1,128	182	2,973	6	3,099	270	0	448	450	1,526
	年度合計	70	1	46,419	46	5,357	857	15,824	263	13,663	3,305	238	2,967	3,804	9,107
1996	埋文課	66	0	32,101	148	3,454	764	12,136	0	14,364	4,429	10	3,239	3,256	7,629
	センター	12	0	5,015	82	565	245	2,529	618	3,331	284	0	520	1,035	1,725
	年度合計	78	0	37,116	230	4,019	1,009	14,665	618	17,695	4,713	10	3,759	4,291	9,354
1997	埋文課	84	1	58,346	56	7,942	1,063	18,594	23	17,119	7,240	44	4,424	3,848	10,889
	センター	8	0	5,088	0	740	134	2,293	355	2,217	391	0	291	616	1,112
	年度合計	92	1	63,434	56	8,682	1,197	20,887	378	19,336	7,631	44	4,715	4,464	12,001
1999	埋文課	109	2	54,107	79	5,509	1,193	18,783	1,008	22,461	7,209	84	5,207	4,779	11,675
	センター	3	0	1,279	1	366	44	704	0	991	82	0	87	88	455
	年度合計	112	2	55,386	80	5,875	1,237	19,487	1,008	23,452	7,291	84	5,294	4,867	12,130
2000	埋文課	75	5	47,069	71	5,798	1,361	20,717	75	26,016	8,431	84	6,069	5,896	12,968
	センター	11	0	3,851	0	535	51	419	69	790	157	0	897	299	337
	年度合計	86	5	50,920	71	6,333	1,412	21,136	144	26,806	8,588	84	6,966	6,195	13,305
2001	埋文課	44	1	30,512	34	4,785	669	8,157	121	10,229	3,011	7	2,263	2,930	5,061
	センター	9	8	6,502	9	841	356	3,277	65	4,281	11	0	1,065	1,039	2,192
	年度合計	53	9	37,014	43	5,626	1,025	11,434	186	14,510	3,022	7	3,328	3,969	7,253
2002	埋文課	50	6	47,781	112	5,229	689	10,503	0	13,496	4,956	13	2,356	3,195	6,274
	センター	10	0	2,595	2	268	130	489	215	2,107	0	0	203	261	690
	年度合計	60	6	50,376	114	5,497	819	10,992	215	15,603	4,956	13	2,559	3,456	6,964
計	埋文課	836	22	511,441	890	55,363	11,548	194,266	2,415	190,732	50,278	732	44,726	45,928	112,013
	センター	161	10	92,339	284	11,456	3,578	35,186	2,499	47,565	3,399	196	8,363	9,537	23,684
	総計	994	32	603,780	1,174	66,819	15,126	229,452	4,914	238,297	53,677	928	53,089	55,465	135,697

註) 年度のSは昭和、Hは平成を示す。1998年度はセンターの増築・改造のため本収蔵は行われなかった。
数の単位は遺物壺箱(個)、コンテナ(箱)、ネガフィルム35mm(本)、その他の写真(コマ、4×5は枚)、図面・写真カード

表2 平成14(2002)年度本収蔵一覧

収蔵番号	収蔵区分	調査番号	遺跡名	回数	報告書(集)	登録遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード	調査担当者			
						点数	壺棺数	コンテナ数	35mm(本)	6×7(コマ)	4×5(枚)	35mm(コマ)	6×7(コマ)	4×5(枚)	遺構			遺物		
200201	センター	7108	井尻A遺跡群	1	32	495	2	47	25			603			36	48	93	折尾学・塩屋勝利		
200202	埋文課	8335	吉武遺跡群*	4	461・600	194		228							21			横山邦継		
200203	埋文課	8416	吉武遺跡群*	6	437・461	610	68	2							136			横山邦継		
200204	埋文課	7839	板付遺跡	27	716	518		35						12	45			山崎純男		
200205	埋文課	9835	五十川遺跡	6	720	25		1	2	38		46	38	12	3	19		小林義彦		
200206	埋文課	9837	五十川遺跡	7	720	104		12	4	106		86	70	28	21	59		小林義彦		
200207	埋文課	9846	五十川遺跡	8	720	9		1	1	22		20	16	4	2	13		小林義彦		
200208	埋文課	9864	箱崎遺跡群	17	704	126		11	4	53		58	51	6	28	34		長家伸		
200209	埋文課	9936	高畑遺跡	18	699	633		53	19	288		328	287	51	90	182		長家伸		
200210	埋文課	9971	那珂遺跡群	75	714	585		36	8	120		123	116	30	43	76		長家伸		
200211	埋文課	0041	箱崎遺跡群	23	704	396		24	6	92		76	107	17	54	65		長家伸		
200212	埋文課	9757	五十川遺跡群	5	720	70		2	1	14		18	14	3	2	9		宮井善朗		
200213	埋文課	0061	麦野A遺跡群	10	719	111		7	3	62		48	12	19	5	38		中村啓太郎		
200214	センター	7406	京の隈古墳・経塚	1	1025	70		1	14			159		12	10	26		山崎純男		
200215	埋文課	8912	有田遺跡群	150	725	474		20	23	322		1,618	19	69	32	206		山崎龍雄		
200216	埋文課	8713	有田遺跡群	124	725	747		51	17	228		177	48	55	119	139		山崎龍雄		
200217	埋文課	9978	箱崎遺跡	21	705	1,348		93	14	287		136	107	44	90	140		榎本義嗣		
200218	埋文課	0035	元寇防塁	9	年報15	7		1	4	22		49	20	6	1	13		榎本義嗣		
200219	埋文課	0048	那珂遺跡群	78	715	218		12	11	29		325	25	33	42	34		池田祐司		
200220	埋文課	0010	田島A遺跡群	3	723	416		9	8	18		189	10	18	15	24		池田祐司		
200221	埋文課	9839	コノリ遺跡	3	728	825		29	7	41		202	26	37	20	35		池田祐司		
200222	埋文課	8017	原遺跡群	4	64	51		2	2			13		4	3	3		山崎龍雄		
200223	埋文課	0017	久保園遺跡	2	712	311		57	10	20		25	20	13	30	28		井上嗣子		
200223	埋文課	0026	席田青木遺跡群	4	712	304		80	11	30		29	30	22	29	36		井上嗣子		
200225	埋文課	9965	井尻B遺跡群	15	年報14	26		2	1	22		27	18	3	1	13		上角智希		
200226	埋文課	0037	井相田D遺跡群	3	701	31		2	1	76		40	52	11	3	43		上角智希		
200227	埋文課	8335	吉武遺跡群*	4	731	214	38	107							64			横山邦継		
200228	埋文課	9915	立花寺B遺跡群	6	702	2,076		347	48	1,768		940	820	578	259	954		田上勇一郎		
200229	埋文課	9647	博多遺跡群	100	707	393		37	5	82		108	90	9	25	48		大庭康時		
200230	埋文課	9752	博多遺跡群	102	706	2,637		196	20	457		418	225	45	148	258		大庭康時		
200231	埋文課	9778	博多遺跡群	107	706	1,502		84	12	340		278	234	36	105	188		大庭康時		
200232	埋文課	9927	博多遺跡群	118	666	1,917		323	17	319		319	196	34	105	190		大庭康時		
200233	埋文課	9952	博多遺跡群	120	706	4,242		339	30	911		820	573	123	193	494		大庭康時		
200234	埋文課	9833	高畑遺跡	17	676	618		104	17	287		353	212	4	21	113	195		大庭康時	
200235	埋文課	9017	博多遺跡群	65	329	680		336	31	279		300		130	92	203		佐藤一郎・小畑弘己		
200236	センター	7209	弥永遺跡群	1	32	306		55	34		131	306		20	15	195		折尾学・塩屋勝利		
200237	埋文課	9641	松木田遺跡群	3	578・686	1,648		94	23	573		343	573	129	89	289		星野恵美・米倉秀紀		
200238	センター	7315	多々良込田	1	32	405		59	9	45		195		26	54	53		折尾学・塩屋勝利		
200239	センター	7210	名子条理遺跡	1	32	0		0	11		26	209		0	0	45		折尾学・塩屋勝利		
200240	センター	7211	津屋条理遺跡	1	32	30		1	15		52	239		16	9	73		折尾学・塩屋勝利		
200241	センター	7212	箱崎条理遺跡	1	32	0		0	0		6	4		8	0	4		折尾学・塩屋勝利		
200242	センター	7107	多々良遺跡	1	20	310		22	11			135		17	12	20		山崎純男・島津義昭		
200243	センター	8038	博多遺跡群	1-f	105	672		9		436				13	105	154		池崎譲二		
200244	埋文課	8535	吉武遺跡群*	9	731	674		5	0	47		36	0	17	69	23		加藤良彦		
200245	埋文課	9218	福岡城跡	19	372	0		0	1	182		177	46	10	0	82		山崎純男・瀧本正志		
200246	埋文課	9236	福岡城跡	20	372	776		70	1	379		485	84	35	25	167		山崎純男・瀧本正志		
200247	埋文課	9420	福岡城跡	27	486	109		10	6	60		121	10	19	3	34		田中寿夫・瀧本正志		
200248	埋文課	9463	福岡城跡	30	486	15		5	1	20		32	8	3	0	7		田中寿夫・瀧本正志		
200249	埋文課	9537	福岡城跡	31	545	770	1	126	18	154		230	105	24	7	90		田中寿夫		
200250	埋文課	9620	福岡城跡	35	545	224		60	16	115		248	105	15	6	71		田中寿夫		
200251	埋文課	9736	福岡城跡	39	586	781		165	25	169		382	96	24	24	116		田中寿夫		
200252	埋文課	9807	福岡城跡	41	620	25		11	3	12		50	0	16	0	7		塩屋勝利・池崎譲二		
200253	埋文課	9831	福岡城跡	42	620	63		19	16	101		419	114	15	0	79		塩屋勝利・池崎譲二		
200254	埋文課	9118	卯内尺古墳	1	690	9,118		20	4	97		93		30	19	57		吉留秀敏		
200255	埋文課	9659	元岡遺跡群	2	722	2,954		93	66	121		920	78	114	271	190		久住猛雄		
200256	埋文課	9908	吉塚遺跡群	7	665	1,655		34	12	41		193	14	34	62	46		久住猛雄		
200257	埋文課	9948	那珂遺跡群	73	713	2,367		72	47	110		472	90	94	190	267		久住猛雄		
200258	埋文課	9901	大原D遺跡群	6	732	1,179		146	45	601		653	8	9	96	142	328		星野恵美	
200259	埋文課	9950	下山門敷町遺跡	3	727	892		50	31	515		573	49	98	95	232		星野恵美		
200260	埋文課	9962	飯倉G遺跡	4	700	32		3	7	217		168	61	38	8	136		星野恵美		
200261	埋文課	9964	飯倉G遺跡	5	700	7		1										星野恵美		
200262	埋文課	9966	下山門乙女田	2	727	1,155		29	20	348		505	0	49	72	156		星野恵美		
200263	埋文課	0055	今宿五郎江遺跡	5	737	716	5	186	10	308		227	11	23	174	158		星野恵美		
200264	センター	7901	多々良込田	3	53	307		50	11	8		257		55	8	27		柳沢一男		
200265	埋文課	8636	比志遺跡群*	15	596	203		43										吉留秀敏		
200266	埋文課	9234	桧原遺跡群*	3	540													吉留秀敏		
				66	小計	50,376	114	4,129	819	10,992	215	15,603	4,956	13	2,559	3,456	6,964			
							コンテナ計	5,497		ネガフィルム計	12,026		フィルム計	20,572	図面計	6,015				

註) 数の単位は遺物壺棺(個)、コンテナ(箱)、ネガフィルム35mm(本)、その他の写真(コマ、4×5は枚)、図面・写真カード(枚)。遺跡名の後に*がついたものは追加収蔵。

表3 フォトCD製作遺跡一覧

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カット数	C D 番号
8415	吉武遺跡群	5	194	1	42	0175-3302-2260
8421	有田遺跡群	95	139	1	15	0175-3302-2261
8423	有田遺跡群	97	139	1	4	0175-3302-2261
8426	吉武遺跡群	7	187	1	68	0175-3302-2262
8428	原遺跡群	9	195	1	53	0175-3302-2263
8430	浦江C遺跡群	1	165	1	8	0175-3302-2264
8431	藤崎遺跡群	10	138	1	16	0175-3302-2265
8433	博多遺跡群	24	119	1	19	0175-3302-2266
8434	博多遺跡群	25	120	1	16	0175-3302-2267
8444	梅ヶ崎遺跡	1	491	1	14	0175-3302-2268
8445	野多目C遺跡群	2	136	1	16	0175-3302-2269
8446	野多目C遺跡群	3	160	1	15	0175-3302-2270
8451	香椎A遺跡群	1	491	1	13	0175-3302-2271
8502	井相田C遺跡群	1	152	1	68	0175-3302-2272
8503	比恵遺跡群	9	145	1	49	0175-3302-2273
8504	比恵遺跡群	10	145	1	10	0175-3302-2273
8506	博多遺跡群	26	144	1	20	0175-3302-2274
8509	博多遺跡群	29	148	1	49	0175-3302-2275
8510	有田遺跡群	100	212	1	46	0175-3302-2276
8511	有田遺跡群	101	139	1	8	0175-3302-2277
8512	有田遺跡群	102	173	1	5	0175-3302-2278
8513	有田遺跡群	103	212	1	9	0175-3302-2276
8515	有田遺跡群	105	173	1	11	0175-3302-2278
8516	有田遺跡群	138	138	1	9	0175-3302-2279
8519	席田大谷遺跡群	3	218	1	11	0175-3302-2280
8521	太田遺跡	1	239	1	17	0175-3302-2281
8523	拾六町ツイジ遺跡	2	162	1	8	0175-3302-2282
8524	板屋遺跡	1	166	1	7	0175-3302-2283
8525	今津B遺跡	1	166	1	10	0175-3302-2284
8526	羽根戸原C遺跡	3	188	1	30	0175-3302-2285
8527	博多遺跡群	1p	205	1	52	0175-3302-2286
8528	羽根戸原C遺跡	4	180	1	34	0175-3302-2287
8529	羽根戸古墳群	2a	180	1	28	0175-3302-2288
8530	那珂遺跡群	7	162	1	33	0175-3302-2289
8531	板付遺跡	45	135	1	16	0175-3302-2290
8532	下山門乙女田遺跡	1	170	1	43	0175-3302-2291
8538	有田遺跡群	106	651	1	30	0175-3302-2292
8540	比恵遺跡群	11	146	1	42	0175-3302-2293
8541	堤ヶ浦古墳群	1	151	1	65	0175-3302-2294
8602	有田遺跡群	107	234	1	57	0175-3302-2295
8603	有田遺跡群	108	155	1	16	0175-3302-2296
8604	那珂若休遺跡群	4	208	1	56	0175-3302-2297
8605	博多遺跡群	30	149	1	14	0175-3302-2298
8606	博多遺跡群	31	150	1	24	0175-3302-2299
8609	那珂遺跡群	8	153	1	29	0175-3302-2300
8610	井尻B遺跡群	2	175	1	40	0175-3302-2301
8611	有田遺跡群	109	173	1	7	0175-3302-2278
8612	片江B遺跡	2	681	1	11	0175-3302-2302
8613	別府遺跡	1	213	1	17	0175-3302-2303
8616	比恵遺跡群	12	174	1	8	0175-3302-2304
8617	比恵遺跡群	13	596	1	15	0175-3302-2305
8618	博多遺跡群	33	176-526	1	44	0175-3302-2306
8620	吉塚遺跡群	1	202	2	132	0175-3302-2307・2308
8622	都地遺跡群	4	223	1	16	0175-3302-2317

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カット数	C D 番号
8623	有田遺跡群	110	308	1	6	0175-3302-2318
8624	有田遺跡群	116	173	1	6	0175-3302-2378
8625	井相田C遺跡群	2	179	1	61	0175-3302-2319
8627	立花寺古墳群	1	182	1	39	0175-3302-2320
8628	板付遺跡	49	171	1	8	0175-3302-2321
8630	野方中原遺跡群	2	313	1	16	0175-3302-2322
8631	コノリ遺跡	2	162	1	6	0175-3302-2323
8632	大音遺跡	1	226	1	10	0175-3302-2324
8634	太田遺跡	3	304	1	25	0175-3302-2325
8635	比恵遺跡群	14	174	1	15	0175-3302-2326
8636	比恵遺跡群	15	596	1	20	0175-3302-2327
8637	比恵遺跡群	16	174	1	18	0175-3302-2328
8638	日佐遺跡	1	646	1	9	0175-3302-2333
8639	有田遺跡群	118	266	1	8	0175-3302-2334
8640	大塚遺跡	6	224	1	6	0175-3302-2335
8643	鷗山A遺跡群	1	236	1	11	0175-3302-4222
8644	有田遺跡群	112	308	1	22	0175-3302-2336
8646	有田遺跡群	113	234	1	11	0175-3302-2337
8648	博多遺跡群	35	177・396	1	64	0175-3302-2338
8649	高畑遺跡	12	210	1	28	0175-3302-2339
8651	有田遺跡群	114	308	1	29	0175-3302-2318
8652	南八幡遺跡群	3	181	1	31	0175-3302-2340
8653	博多遺跡群	19	221	1	46	0175-3302-2341
8655	有田遺跡群	115	684	1	14	0175-3302-2342
8656	有田遺跡群	116	308	1	46	0175-3302-2343
8657	有田遺跡群	117	173	1	13	0175-3302-2278
8659	七反田遺跡	1	223	1	33	0175-3302-2344
8660	女原遺跡群	3	224	1	36	0175-3302-2345
8701	有田遺跡群	119	264	1	27	0175-3302-2346
8703	那珂遺跡群	9	598	1	15	0175-3302-2391
8704	重留古墳群	3	178	1	16	0175-3302-2454
8706	有田遺跡群	121	264	1	17	0175-3302-2455
8707	有田遺跡群	122	173	1	20	0175-3302-2478
8708	野間B遺跡	1	211	1	26	0175-3302-0286
8709	湯納遺跡	9	225	1	32	0175-3302-2545
8710	名切谷遺跡群	1	226	1	12	0175-3302-2546
8712	有田遺跡群	123	266	1	11	0175-3302-3749
8713	有田遺跡群	124	725	1	24	0175-3302-3750
8715	重留窯跡遺跡	1	178	1	19	0175-3302-3752
8716	浦田薨棺遺跡	2	年報9	1	8	0175-3302-3753
8717	比恵遺跡群	17	227	1	16	0175-3302-3754
8718	有田遺跡群	125	340	1	39	0175-3302-3755
8719	西新町遺跡	4	203	1	35	0175-3302-3756
8721	広石古墳群	2	226	1	20	0175-3302-4221
8722	鷗山A遺跡群	2	236	1	8	0175-3302-4222
8723	四箇遺跡群	22	199	1	31	0175-3302-4223
8724	有田遺跡群	126	264	1	22	0175-3302-4224
8705	有田遺跡群	120	234	1	7	0175-3302-2295
8725	博多遺跡群	36	228・244	1	37	0094-3181-0282
8726	鷗崎古墳群A群	1	506	1	18	0094-3181-0283
8945	鷗崎古墳群A群	2	506	1	38	0094-3181-0283
8727	那珂遺跡群	10	291	1	10	0094-3181-0284
8732	那珂遺跡群	11	291	1	1	0094-3181-0284
8733	那珂遺跡群	12	291	1	2	0094-3181-0284

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カセット数	C D 番号
8850	那珂遺跡群	17	291	1	11	0094-3181-0284
8729	有田遺跡群	127	264	1	3	0094-3181-0285
8730	有田遺跡群	128	264	1	8	0094-3181-0285
8735	有田遺跡群	129	264	1	13	0094-3181-0285
8844	有田遺跡群	144	264	1	8	0094-3181-0285
8979	有田遺跡群	156	264	1	12	0094-3181-0285
8980	有田遺跡群	157	264	1	11	0094-3181-0285
9034	有田遺跡群	162	264	1	3	0094-3181-0285
8731	野間B遺跡	2	211	1	23	0094-3181-0286
8734	広石古墳群	3	226	1	91	0094-3181-0287
8736	那珂遺跡群	13	222	1	82	0094-3181-0288
8737	板付遺跡	53	206	1	15	0094-3181-0289
8905	有田遺跡群	149	234	1	17	0175-3302-2295
8739	有田遺跡群	130	212	1	13	0175-3302-2276
8753	有田遺跡群	134	212	1	6	0175-3302-2276
8738	野方古墳群	4	226	1	33	0094-3181-0290
8740	博多遺跡群	37	244	1	51	0094-3181-0291
8742	有田遺跡群	131	234	1	12	0094-3181-0292
8853	有田遺跡群	146	234	1	7	0094-3181-0292
8744	四箇遺跡群	23	196	1	28	0094-3181-0293
8746	羽根戸古墳群	3	198	1	19	0094-3181-0294
8747	福岡城跡	9	270・315	1	70	0094-3181-0295
8748	重留遺跡群	1	235	1	52	0094-3181-0783
8750	有田遺跡群	133	234	1	25	0094-3181-0296
8751	広石遺跡群	4	195	1	39	0094-3181-0784
8754	有田遺跡群	135	340	1	6	0094-3181-0785
8815	有田遺跡群	140	340	1	6	0094-3181-0785
8802	那珂遺跡群	15	267	1	44	0094-3181-0786
8803	有田遺跡群	136	378	1	22	0094-3181-0788
8805	博多遺跡群	38	280	1	35	0094-3181-0894
8806	博多遺跡群	39	229	2	167	0094-3181-0895
8808	徳永A遺跡	1	242	1	20	0094-3181-0896
8809	広石南古墳群B群	1	214	1	20	0094-3181-0897
8810	野間B遺跡	3	231	1	13	0094-3181-0286
8811	有田遺跡群	138	308	1	27	0094-3181-0898
8813	有田遺跡群	139	266	1	32	0094-3181-0899
8814	原遺跡群	10	215	1	41	0094-3181-0900
8816	脇山遺跡群	3	236	1	51	0094-3181-0901
8817	藤崎遺跡群	12	232	1	14	0094-3181-0902
8819	藤崎遺跡群	14	232	1	3	0094-3181-0902
8818	藤崎遺跡群	13	232	1	73	0094-3181-0904
8820	比恵遺跡群	18	227	1	48	0094-3181-0905
8821	笠間谷古墳群	1	226	1	40	0094-3181-0906
8822	有田遺跡群	141	378	1	31	0094-3181-0907
8824	弥永原遺跡	4	219	1	9	0094-3181-0908
8830	大橋E遺跡	2	219	1	11	0094-3181-0908
8825	橋本一丁田	1	220	1	40	0094-3181-1254
8828	比恵遺跡群	19	255	1	15	0094-3181-1255
8829	福岡城	10	270	1	45	0094-3181-1256
8831	原遺跡群	12	233	1	17	0094-3181-1257
8832	那珂遺跡群	14	291	1	28	0094-3181-1258
8833	博多遺跡群	40	230	1	90	0094-3181-1259
8835	飯倉A遺跡群	1	296	1	44	0094-3181-1260
8836	有田遺跡群	142	378	1	67	0094-3181-1261

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カセット数	C D 番号
8836	有田遺跡群	143	378	1		0094-3181-1261
8837	羽根戸古墳群	4	346	1	28	0094-3181-1262
8839	原遺跡群	13	233	1	6	0094-3181-1257
8841	野芥遺跡群	1	297	1	14	0094-3181-1264
9045	野芥遺跡群	2	297	1	13	0094-3181-1264
8843	博多遺跡群	42	245	1	57	0094-3181-1265
8845	飯倉G遺跡群	1	334	1	35	0094-3181-1730
9018	飯倉G遺跡群	2	334	1	17	0094-3181-1730
9119	飯倉G遺跡群	3	334	1	19	0094-3181-1730
8846	徳永A遺跡群	2	306	1	22	0094-3181-1731
8847	田村遺跡群	8	384	1	9	0094-3181-1732
9059	田村遺跡群	11	384	1	8	0094-3181-1732
9247	田村遺跡群	13	384	1	8	0094-3181-1732
8849	那珂遺跡群	16	291	1	60	0094-3181-1733
8851	有田遺跡群	145	340	1	30	0094-3181-1734
8861	有田遺跡群	148	340	1	20	0094-3181-1734
8852	博多遺跡群	43	246	1	28	0094-3181-1735
8854	有田遺跡群	147	426	1	37	0094-3181-1736
8960	有田遺跡群	153	426	1	7	0094-3181-1736
8855	那珂遺跡群	18	292	1	16	0094-3181-1737
9046	那珂遺跡群	30	292	1	9	0094-3181-1737
9053	那珂遺跡群	31	292	1	9	0094-3181-1737
8857	博多遺跡群	44	247	1	25	0094-3181-1738
8858	高宮八幡	1	218	1	27	0094-3181-1739
8859	比恵遺跡群	20	227	1	10	0094-3181-1740
8909	比恵遺跡群	23	227	1	3	0094-3181-1740
8860	三苦京塚古墳	1	243	1	29	0094-3181-1741
8862	博多遺跡群	45	248	1	46	0094-3181-1742
8863	比恵遺跡群	21	596	1	7	0175-3302-2305
8865	福岡城跡	11	237	1	25	0094-3181-1743
8901	板付遺跡	55	362	1	9	0094-3181-1744
8902	博多遺跡群	46	281	1	14	0094-3181-1745
8906	那珂遺跡群	20	324	1	66	0094-3181-1746
8907	板付遺跡	56	717	1	20	0094-3181-1747
8908	原遺跡群	14	295	1	14	0094-3181-1748
8910	福岡城跡	13	270	1	91	0094-3181-1749
9005	福岡城跡	15	355	1	36	0094-3181-1750
9130	福岡城跡	17	355	1	53	0094-3181-1751
8912	有田遺跡群	150	725	1	46	0185-3302-0809
8914	飯倉H遺跡群	1	240	1	38	0185-3302-0810
8915	博多遺跡群	48	282	1	65	0185-3302-0811
8917	比恵遺跡群	24	255	1	2	0185-3302-0812
8924	比恵遺跡群	25	255	1	29	0185-3302-0812
8939	比恵遺跡群	26	255	1	45	0185-3302-0813
8971	比恵遺跡群	27	255	1	20	0185-3302-0814
8981	比恵遺跡群	28	255	1	15	0185-3302-0815
8918	博多遺跡群	50	249	1	48	0185-3302-0816
8919	有田遺跡群	151	308	1	5	0175-3302-2318
9020	有田遺跡群	158	308	1	22	0185-3302-0817
9041	有田遺跡群	164	308	1	20	0185-3302-0818
8920	蓮町遺跡群	1	306	1	21	0185-3302-0821

2. 保 存 処 理

(1) はじめに

当センターでは昭和57年の開館以来、市内出土埋蔵文化財のうち腐蝕や劣化により資料としての取り扱いや、通常の保管が困難なもの（主に対象となるのは木製品と金属製品）について、保存のための科学的処置を講じている。当初は直接的な処置のための限られた機器で作業を行ってきたが、平成11年度の増築により事前調査機器や大型の処理装置などが導入され、幅広い資料に対応が可能となっている。増築前後の施設の内容については、年報の第15号（増築前）、18号（増築後）をそれぞれ参照されたい。

(2) 出土木製品（有機物）

1) 処理の概要

今年度処理を行ったのは36遺跡460点で、詳細は一覧表の通りである（表4）。この内、比恵遺跡41・43・54・57・58次、東比恵3丁目遺跡1次、免遺跡2次出土の144点は国庫補助事業によるものである。処理法は資料の形態、材質、劣化度などを考慮し、PEG含浸法を中心に3つの処理法を用いている。PEG含浸法は一般的な小型、中型の木製品、糖アルコール含浸法は、PEG含浸法では処理が困難な漆器や墨書の施された木簡類、或いは展示など活用のスケジュールに合わせて短期間で処理が必要な資料、真空凍結乾燥法はPEGを100%含浸すると重くて取り扱いが困難な大型材や、変形を期す恐れのある広葉樹芯持ち材というように、資料の種類に応じて使い分けをしている。

2) 処理工程

各処理法による作業は、資料の洗浄、処理前の写真撮影、処理カードの作成といった共通作業以降、次のような工程で行った。

i) PEG含浸法

①資料の梱包…不織布で梱包し、メッシュのコ

ンテナなどに納める。

②PEG含浸…専用の含浸装置に梱包した資料を入れ、注水、加熱（60℃）。温度が安定したら初期濃度20%より置換開始。PEGは処理槽の容量から算出した計画表に基づき、日々適量を投入し、同時に水分蒸発により濃度上昇を図った。濃度は一週間に一度溶液を採取し、溶液の重量と水分蒸発後の重量比較により算出。工程1（3m槽）は5月末に置換を開始し、約8ヶ月後の2月初めに100%に、工程2（2m槽）は10月に置換を開始し、約12ヶ月後の翌年度10月に100%に至り、その後更に数週間含浸。

③取り上げ…溶液から資料を取り出した後、温水で表面を洗浄し、自然乾燥（PEGの固化）。

④処理後観察…変形、破損の有無を点検し、処理前と比較した上で処理カードに記入。

⑤脱色及び表面処理…湯煎したアルコールによる表面洗浄。従来は安価なメチルアルコールを使用していたが、人体への影響や漂白力の高さからエチルアルコールの使用が望まれていた。今回使用したエタノール混合溶剤（ソルミックスAP-7）はエチルアルコールが主成分（約85%）であるが、その他のアルコール（ノルマルプロピルアルコール等）が少量ずつ添加されており、酒税がかからない分安価に購入でき、今年度より使用している。

⑥修復（破損資料のみ）…エポキシ系接着剤による折損部の接合、エポキシ系接着剤にマイクロバルーンを混入した材料による、欠損の復元。

ii) 糖アルコール含浸法

①溶液の準備…資料の高さに対して3倍以上の深さを持つ容器に、初期濃度約30%のラクチール水溶液を作製。恒温乾燥機を80℃に設定し、加熱。容器には寸法・形状の多様さからポリプロピレン製のタッパーを使用し、付属の蓋（ポリエチレン製）は80℃の熱に耐えられないことから、蓋にはアルミホイルを使用した。

- ②ラクチトール含浸…資料を溶液に浸し、資料が溶液の底に沈むことでその濃度が含浸されたと判断し、蓋をはずして水分蒸発により溶液濃度の上昇を図る。80℃で限界濃度（約80%）まで含浸させる。期間は小型資料で5日～2週間。
- ③結晶化…資料を溶液から取り出し、表面を温水で軽く洗浄後、ラクチトールの粉末をまぶし、表面のラクチトール結晶を核として結晶化を資料内部まで進め固化させる。資料は50℃に設定した恒温乾燥機に入れるが、この際、温風が資料に直接あたらないように注意する（過乾燥の防止）。結晶化の時間は他施設での実績や経験的なもので判断している（小型資料で1週間～10日）。
- ④洗浄…表面に固着しているラクチトールの結晶を水で洗浄。
- ⑤乾燥…再び50℃の乾燥機で乾燥させる。

iii) 真空凍結乾燥法

資料は中世の井戸杵材4点で、長さ3m程の柱材、長さ140cm前後の板材2枚、それに長さ2m、厚さ2.4cmの大型板材1点である。本来であれば、乾燥前に資料強化のためPEGを50%程含浸させるところであるが、今回の資料は比較的時代も新しく、木質の残りも良かったこと、更には大型板材には手斧で表面を削り調整した加工痕が明瞭に残っていたこともあり、出土後そのまま処理を行った。

- ①予備凍結…資料を大型凍結乾燥機に入れ、装置を作動。約-60℃下で凍結させる。
- ②乾燥…資料内の水分が十分に凝結したら、チャンバーを真空にし昇華による乾燥を図る。

3) 処理後の状態

真空凍結乾燥法で処理した資料は、PEGをまったく含浸せずに処理したためか、強度に問題はないものの、大型板材に関して若干の亀裂と反りが生じた。その他はPEG含浸法に向かない資料を事前に省き、糖アルコール含浸法で処理したため、亀裂や変形などの目立った症状はみられなかった。ただPEG含浸法工程2では中古

のPEGを使用したため、若干色上がりが悪くなっている。なお処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

4) 処理木器紹介

◇柄杓（写真1）…比恵遺跡58次調査では、井戸から弥生時代後期後半頃の土器と共に柄杓が出土した。とても複雑な形状をしているが、一木を削りだして作られたものである。杓部の先端下部には鱗（ひれ）状の部位が作られ、湾曲した柄と鱗状部を、容器の縁に掛けて落下を防ぐ機能があったと考えられる。処理前当初は10数片に崩壊、かつ脆弱化が著しく持つこともままならない状態であったが、保存処理・接合・復元により、強度・形状・色上がり共に見栄えある資料に仕上がった。



写真1 柄杓（PEG含浸法）

◇製鉄関連木製品（写真2）…元岡遺跡群12次調査では、谷を造成して造られた奈良時代の製鉄炉が27基見つかった。製鉄炉は、炉の中に原料の砂鉄と木炭を交互に投げ入れ、空気を送り込みながら高温で溶解させ、原料から純粋な鉄を得るのに用いられる。その際炉の底には砂鉄が溶けて不純物（鉄滓）が溜まるため、炉の下から掻き出す必要がある。木製送風管は一方の端が焼け焦げており、炉の送風口に接して、製

鉄炉に空気を送り込むのに使用されたと考えられる。また、木製火掻き棒も、鉤型の先端は焼け焦げており、炉壁や鉄滓の掻き出しに使用されたと考えらる。製鉄業は通常、水分を嫌うため、木製品は残りにくい環境での操業となる。しかし、本遺跡は木製品の残りやすい土壌で、谷を造成した高台で操業を行っており、木製品と共に炉壁や鉄滓を谷の底に廃棄し続けた結果、全国的にも類例が少ない中、古代製鉄関連の木製品として、日の目を見ることとなった。



写真2 火掻き棒と送風管 (糖アルコール含浸法)

◇紀年銘木簡 (写真3) …元岡遺跡群20次調査では、谷を堰きとめて造られた古代の池状遺構が見つかり、木簡37点が出土した。木簡には年号を記したものが2点あり、「大寶元年」(西暦701年)と「延暦四年」(西暦785年)が記されてあった。木簡への年号の記載は大寶律令の制定(大寶元年)から始まる(それ以前は干支、例えば大寶元年是辛丑〔カトウシ〕となる)もので、この年号の木簡は全国初で最古の元号木簡となる。木簡には年号の他、地名、人名なども記されたものがあり、まさに、いつ、どこで、だれが、を知る上での貴重な資料といえる。



写真3 紀年銘木簡の赤外線写真 (糖アルコール含浸法)

元岡遺跡群12次、20次調査出土の木製品は、埋蔵文化財公開普及事業「発掘された日本列島2002(新発見考古速報展)」出展のため、糖アルコール含浸法によりそれぞれ2～3週間で処理を行った。

[参考文献]

- 大庭康時(編)1998『比恵遺跡群25-比恵遺跡群58次調査の概要-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第561集 福岡市教育委員会
- 菅波正人他(編)2003『九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報2-元岡・桑原遺跡群発掘調査-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第743集 福岡市教育委員会
- 文化庁(編)2002『発掘された日本列島-2002新発見考古速報-』朝日新聞社

表4 平成14(2002)年度保存処理木製品一覧

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
四箇1次(調査番号:7411 市報172集)							
16971	市	3130	矢板	木	古墳前期	—	PEG
四箇3次(調査番号:7517 市報172集)							
16972・16973	市	3125・3126	矢板(2点)	木	弥生中期末	—	PEG
16974・16975	市	3129・3132	割材(2点)	木	弥生中期末	—	PEG
16976	市	3133	杭	木	弥生中期末	—	PEG
16977・16978	市		割材(2点)	木	不明	—	PEG
四箇4次(調査番号:7518 市報172集)							
16979	市	3128	割材	木	弥生中期	—	PEG
四箇6次(調査番号:7615 市報172集)							
16980・16981	市	3123・3124	矢板(2点)	木	古墳前期	—	PEG
16982・16983	市	3131・3134	割材(2点)	木	古墳前期	—	PEG
16984	市	3135	杭	木	古墳前期	—	PEG
四箇17次(調査番号:7849 市報428集)							
16985~17002	市	10367~10384	杭(18点)	木	古墳初頭	—	PEG
17003	市	10385	板材	木	古墳初頭	—	PEG
17004~17010	市	10386~10392	杭(7点)	木	古墳初頭	—	PEG
17011	市	10393	建築部材	木	古墳初頭	—	PEG
17012~17022	市	10394~10404	杭(11点)	木	古墳初頭	—	PEG
17023	市	10405	楔?	木	古墳初頭	—	PEG
17024	市	10406	板材	木	古墳初頭	—	PEG
17025~17032	市	10407~10414	杭(8点)	木	古墳初頭	—	PEG
羽根戸原C1次(調査番号:8526 市報188集)							
17033	市	20001	穿孔木器	木	弥生中期~奈良	67-35	PEG
博多35次(調査番号:8648 市報396集)							
16867	市	4056	漆塗皿	木・漆	中世(室町時代)	27-763	アクリル樹脂含浸
四箇23次(調査番号:8744 市報196集)							
17034	市	20001	えぶり?	木	古墳?	20-4	PEG
17035	市	20002	平鍬	木	弥生前期	20-3	PEG
17036	市	20003	鍬	木	弥生前期	20-2	PEG
17037	市	20004	ヘラ状	木	弥生前期	20-1	PEG
四箇24次(調査番号:8952 市報261集)							
17038	市	27	ねずみ返し	木	縄文~弥生	20-29	PEG
17039	市	58	三又鍬	木	縄文	12-2	PEG
17040	市	59	棒状(祭祀具?)	木	縄文	12-1	PEG
拾六町平田2次(調査番号:9011 市報349集)							
17872	市	30006	ヒョウタン	木	弥生	—	糖アルコール
雀居2次(調査番号:9131 市報322集)							
16944	市	60074	齋串	木	古代(10C後半代)	28-74	糖アルコール
比恵41次(調査番号:9211 市報401集)							
15172	補	2001	板材	木	弥生	21-203	PEG
15173	補	2002	矢板?	木	弥生	21-204	PEG
15174	補	2003	三又鍬	木	弥生	21-205	PEG
15175	補	2004	ソケット	木	弥生	—	PEG
15176	補	2005	板材	木	弥生	21-207	PEG
15177	補	2006	建築部材	木	弥生	21-206	PEG
15178	補	2007	板材	木	弥生	21-208	PEG
16734	市	20001	割材	木	弥生	—	PEG
16735	市	20002	杭	木	弥生	—	PEG
16736・16737	市	20003・20004	割材(2点)	木	弥生	—	PEG
16738~16745	市	20005~20012	杭(8点)	木	弥生	—	PEG
16746	市	20013	板材	木	弥生	—	PEG
16747~16767	市	20014~20034	杭(21点)	木	弥生	—	PEG
16768	市	20035	流木(炭の木)	木	弥生	—	PEG
16769~16773	市	20036~20040	杭(5点)	木	弥生	—	PEG
16774	市	20041	割材	木	弥生	—	PEG
16775・16776	市	20042・20043	杭(2点)	木	弥生	—	PEG
16777	市	20044	棒状	木	弥生	—	PEG
16778~16781	市	20045~20048	杭(4点)	木	弥生	—	PEG
16782・16783	市	20049・20050	板材(2点)	木	弥生	—	PEG
16784~16786	市	20051~20053	杭(3点)	木	弥生	—	PEG
16787	市	20054	杭	木	中世	—	PEG
16788~16790	市	20055~20057	杭(3点)	木	弥生	—	PEG
16791	市	20058	杭	木	中世	—	PEG

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
比恵43次(調査番号:9229 市報453集)							
15179	補	2001	容器	木	弥生	26-194	PEG
15180	補	2002	板材	木	弥生	26-195	PEG
15181	補	2003	建築部材	木	弥生	26-206	PEG
15182	補	2004	石鎌の柄	木	弥生	26-196	PEG
15183	補	2005	ヘラ状	木	弥生	26-199	PEG
15184	補	2006	杭	木	弥生	26-198	PEG
15185	補	2007	膝柄	木	弥生	26-197	PEG
15186	補	2008	杭	木	弥生	—	PEG
15187	補	2009	柄?	木	弥生	26-202	PEG
15188	補	2010	柄?	木	弥生	26-200	PEG
15189	補	2011	柄?	木	弥生	26-201	PEG
15190	補	2012	杭	木	弥生	26-205	PEG
15191	補	2013	杭	木	弥生	26-203	PEG
15192	補	2014	杭	木	弥生	26-210	PEG
15193	補	2015	杭	木	弥生	26-209	PEG
15194	補	2016	杭	木	弥生	26-204	PEG
15195	補	2017	板材	木	弥生	26-208	PEG
15196	補	2018	有孔板材	木	弥生	26-207	PEG
15197	補	2019	桜樹皮	木	弥生	—	PEG
15198	補	2020	さらえの刃部片	木	弥生	27-212	PEG
15199	補	2021	杭	木	弥生	27-214	PEG
15200	補	2022	板材	木	弥生	27-213	PEG
15201	補	2023	さらえの刃部片	木	弥生	27-211	PEG
16792	市	12001	杭	木	弥生	—	PEG
16793	市	12002	桜皮など	木	弥生	—	PEG
16794~16800	市	12003~12009	木片・杭など(7点)	木	弥生	—	PEG
雀居4次(調査番号:9241 市報748集)							
17873	市	60677	木鏝(朱塗り)	木	弥生後期後半	66-97	糖アルコール
17874	市	60678	木鏝	木	弥生後期後半	5-7	糖アルコール
免2次(調査番号:9261 市報536集)							
15202	補	1	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	91	PEG
15203	補	2	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	—	PEG
15204	補	3	二又鍬	木	弥生後期~古墳後期	87	PEG
15205	補	4	平鍬	木	弥生後期~古墳後期	90	PEG
15206	補	5	二又鍬	木	弥生後期~古墳後期	87	PEG
15207	補	6	諸手鍬	木	弥生前期	86	PEG
15208	補	7	槌	木	弥生後期~古墳後期	92	PEG
15209	補	9	二又鍬	木	弥生後期~古墳後期	87	PEG
15210	補	10	平鍬	木	弥生後期~古墳後期	86	PEG
15211	補	11	二又鍬	木	弥生後期~古墳後期	87	PEG
15212	補	12	平鍬	木	弥生後期~古墳後期	90	PEG
15213	補	13	諸手鍬	木	弥生前期	86	PEG
15214	補	14	三又鍬	木	弥生後期~古墳後期	88	PEG
15215	補	15	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	90	PEG
15216	補	16	槌	木	弥生後期~古墳後期	92	PEG
15217	補	17	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	91	PEG
15218	補	18	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	92	PEG
15219	補	20	板材	木	弥生後期~古墳後期	—	PEG
15220	補	21	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	91	PEG
15221	補	22	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	91	PEG
15222	補	23	三又鍬	木	弥生後期~古墳後期	88	PEG
15223	補	24	加工木材	木	弥生後期~古墳後期	93	PEG
15224	補	25	火鑽臼	木	弥生前期後半	93	PEG
15225	補	26	豎櫛	木	弥生後期~古墳後期	93	PEG
15226	補	27	平鍬	木	弥生前期~古墳初頭	86	PEG
15227	補	28	長柄鋤	木	弥生後期~古墳後期	89	PEG
15228	補	29	二又鍬	木	弥生後期~古墳後期	86	PEG
15229	補	30	豎杵	木	弥生後期~古墳後期	91	PEG
15230	補	31	鋤柄	木	弥生前期末	89	PEG
15231	補	32	木鏝	木	弥生後期~古墳後期	93	PEG
15232	補	33	平鍬	木	弥生後期~古墳後期	90	PEG
15233・15234	補	34・35	円形加工材(2点)	木	弥生後期~古墳後期	93	PEG
15235	補	36	三又鍬	木	弥生後期~古墳後期	88	PEG

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
15236	補	37	杓文字	木	弥生後期～古墳後期	94	PEG
15237	補	38	二又鋤	木	弥生後期～古墳後期	87	PEG
15238	補	39	槌	木	弥生後期～古墳後期	92	PEG
15239～15241	補	42～44	二又鋤(3点)	木	弥生後期～古墳後期	87～88	PEG
15242	補	48	板材	木	弥生後期～古墳後期	94	PEG
15243	補	49	扉の把手	木	弥生後期～古墳後期	95	PEG
15244	補	50	槽	木	弥生後期～古墳後期	—	PEG
15245	補	54	竪杵	木	弥生後期～古墳後期	90	PEG
15246	補	56	たるき	木	弥生後期～古墳後期	97	PEG
15247	補	59	曲げ物の底板	木	古墳(6C)	94	PEG
15248	補	63	矢板	木	弥生後期～古墳後期	—	PEG
15249	補	64	竪杵	木	弥生後期～古墳後期	92	PEG
15250	補	65	不明農耕具	木	弥生後期～古墳後期	90	PEG
15251	補	66	板材	木	弥生前～古墳初頭	97	PEG
15252	補	67	長柄二又鋤	木	古墳初頭	89	PEG
比恵54次(調査番号:9443 市報520集)							
15253	補	1002	浮子	木	弥生	9	PEG
15254・15255	補	1003・1004	杭(2点)	木	弥生	9	PEG
1525615257	補	1005・1006	建築部材?(2点)	木	弥生	9	PEG
15258	補	1007	楔?	木	弥生	9	PEG
15259	補	1008	棒状	木	弥生	9	PEG
15260	補	1009	建築部材?	木	弥生	—	PEG
15261	補	1010	鉢	木	弥生	9	PEG
15262	補	1011	木鏝	木	弥生	9	PEG
野芥4次(調査番号:9450 市報575集)							
17041	市	552	下駄	木	中世(15C)	49-4	PEG
野芥5次(調査番号:9454 市報609集)							
17041・17042	市	2001・2002	杭(2点)	木	不明	11-8・7	PEG
香椎B1次(調査番号:9503 市報621集)							
17875・17876	市	30007・30040	齋串(2点)	木	中世	131・134	糖アルコール
17877・17878	市	30064・30065	木簡(2点)	木	中世	—	糖アルコール
16949	市	30159	木簡	木・墨書	中世	150	糖アルコール
16950	市	30160	木簡	木・墨書	中世	151	糖アルコール
16951	市	30162	木簡	木・墨書	中世	150	真空凍結乾燥
16952～16956	市	30163～30167	木簡(5点)	木・墨書	中世	150	糖アルコール
16957	市	30168	木簡	木・墨書	中世	151	真空凍結乾燥
16958	市	30169	木簡	木・墨書	中世	151	糖アルコール
博多89次(調査番号:9505 市報556集)							
16917	市	30010	円形板材(墨書有り)	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	87-120	糖アルコール
16918	市	30011	円形板材	木	近世(17C中頃～18C前半)	87-122	糖アルコール
16919	市	30012	桶or樽の蓋or底	木	近世(17C中頃～18C前半)	87-123	糖アルコール
16920	市	30023	櫛	木	近世	235-924	糖アルコール
16921	市	30024	櫛(漆塗り)	木・漆	近世	264-1040	糖アルコール
16922	市	30025	櫛	木	近世(17C中頃～18C前半)	87-117	糖アルコール
16923	市	30026	漆器三宝	木・漆	近世(17C中頃～18C前半)	88-126	糖アルコール
16924	市	30027	漆器三宝(皿部)	木・漆	近世(17C中頃～18C前半)	88-128	糖アルコール
16925	市	30028	漆器三宝(台の縁部)	木・漆	近世(17C中頃～18C前半)	88-127	糖アルコール
16926	市	30029	棒状	木	近世	214-881	糖アルコール
16927	市	30030	荷札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	90-150	糖アルコール
16928	市	30031	板材	木	近世(17C中頃～18C前半)	89-139	糖アルコール
16929	市	30032	板材	木	近世(17C中頃～18C前半)	89-140	糖アルコール
16930	市	30033	板材	木	近世(17C中頃～18C前半)	89-143	糖アルコール
16931	市	30034	箱の蓋?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	90-152	糖アルコール
16932	市	30035	箱の蓋?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	89-144	糖アルコール
16933	市	30036	箱の蓋?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	90-153	糖アルコール
16934	市	30037	木札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	90-149	糖アルコール
16935	市	30038	木札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	89-146	糖アルコール
16936	市	30039	荷札(焼き印)	木	近世(17C中頃～18C前半)	89-147	糖アルコール
16937	市	30040	木札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	90-151	糖アルコール
16938	市	30041	木札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	89-141	糖アルコール
16939	市	30042	木札?	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	89-145	糖アルコール
16940	市	30043	板材	木・墨書	近世(17C中頃～18C前半)	89-142	糖アルコール
16941	市	30044	折敷	木	近世(17C中頃～18C前半)	88-129	糖アルコール
16942	市	30045	板材	木	近世(17C中頃～18C前半)	89-138	糖アルコール

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
16943	市	30046	櫛(青銅金具付)	木・銅	近世(17C中頃~18C前半)	87-118	糖アルコール
比恵57次(調査番号:9541 市報530集)							
15263	補	159	有孔板材	木	弥生	34-159	PEG
15264	補	160	椀	木	弥生	34-160	PEG
15265	補	161	先刻菱形状	木	弥生	34-161	PEG
15266	補	162	柄部?	木	弥生	34-162	PEG
15267	補	217	板材	木	弥生	43-217	PEG
15268	補	250	又鋤	木	弥生	45-250	PEG
15269	補	417	板材	木	弥生	—	PEG
15270	補	418	板材	木	弥生	—	PEG
16801~16804	市	4272~4275	木片・杭など(4点)	木	弥生~古墳	—	PEG
比恵58次(調査番号:9601 市報561集)							
15271	補	1401	柄杓	木	弥生後期後半	34-3	PEG
15272	補	1402	鋤・鋤の柄	木	弥生後期中頃~後半	51-58	PEG
15273	補	1403	竪杵	木	弥生後期中頃~後半	50-53	PEG
15274	補	1404	三又鋤	木	弥生後期中頃~後半	51-56	PEG
15275	補	1405	鋤柄?	木	弥生後期中頃~後半	50-54	PEG
15276	補	1406	三又鋤	木	弥生後期中頃~後半	51-55	PEG
15277	補	1407	三又鋤	木	弥生後期中頃~後半	51-57	PEG
15278	補	1408	ねずみ返し	木	弥生後期中頃~後半	51-59	PEG
16805~16850	市	1410~1455	礎板(46点)	木	弥生後期	—	PEG
16851	市	1456	浮き?	木	弥生後期	—	PEG
16852	市	1457	柱根(加工痕有)	木	弥生後期	—	PEG
16853	市	1458	礎板	木	弥生後期	—	PEG
16854	市	1459	板・桜の皮	木	弥生後期	—	PEG
16855	市	1460	杭など	木	弥生後期	—	PEG
三苦3次(調査番号:9636 市報548集)							
17044	市	42	桶の部材	木	中世	15-27	PEG
17045	市	43	ヘラ状	木	中世	15-28	PEG
17046~17048	市	700~702	杭(3点)	木	近世	—	PEG
比恵62次(調査番号:9720 市報595集)							
16864	市	7001	木簡?	木	弥生中期~古墳後期	—	PEG
東比恵3丁目1次(調査番号:9726 市報636集)							
15279	補	501	平鋤	木	弥生中期後半~後期前半	26-1	PEG
15280	補	502	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	26-2	PEG
15281	補	503	三又鋤	木	弥生	26-3	PEG
15282	補	504	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	26-4	PEG
15283	補	505	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	27-5	PEG
15284	補	506	三又鋤	木	弥生中期中頃	27-6	PEG
15285	補	507	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	27-7	PEG
15286	補	508	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	27-8	PEG
15287	補	509	一木造り鋤柄?	木	弥生中期後半~後期前半	28-9	PEG
15288	補	510	平鋤	木	弥生中期後半~後期前半	28-10	PEG
15289	補	511	平鋤	木	弥生中期後半~後期前半	28-11	PEG
15290	補	512	えぶり	木	弥生中期中頃	28-12	PEG
15291	補	513	鎌柄	木	弥生中期後半~後期前半	28-13	PEG
15292	補	514	袋状鉄斧柄	木	弥生中期後半~後期前半	28-14	PEG
15293	補	515	三又鋤	木	弥生中期後半~後期前半	29-15	PEG
15294	補	516	鋤類組合せ着装具	木	弥生中期後半~後期前半	29-16	PEG
15295	補	517	鋤柄	木	弥生中期後半~後期前半	29-17	PEG
15296	補	518	三又鋤	木	弥生中期中頃	29-18	PEG
15297	補	519	膝柄鋤類の柄	木	弥生中期後半~後期前半	29-19	PEG
15298	補	520	棒状	木	弥生中期後半~後期前半	29-20	PEG
15299	補	521	棒状	木	弥生中期後半~後期前半	29-21	PEG
15300	補	522	杓文字状	木	弥生中期中頃	30-22	PEG
15301	補	523	直柄組合せ式襷	木	弥生中期後半~後期前半	30-23	PEG
15302	補	524	アカカキ末製品?	木	弥生中期中頃	30-24	PEG
15303	補	525	半月形の板状?	木	弥生中期中頃	31-25	PEG
15304	補	526	のき(楯?)	木	弥生中期後半~後期前半	31-26	PEG
15305	補	527	板材	木	弥生中期中頃	31-27	PEG
15306	補	528	杭	木	弥生中期中頃	31-28	PEG
16856	市	529	建築部材	木	弥生中期後半~後期前半	32-29	PEG
15308~15313	補	530~535	建築部材(6点)	木	弥生中期後半~後期前半	32-30~35	PEG
15314・15315	補	536・537	杭(2点)	木	弥生中期後半~後期前半	33-36・37	PEG

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
15316	補	538	建築部材	木	弥生中期後半～後期前半	33-38	PEG
16857	市	539	杭	木	弥生中期後半～後期前半	—	PEG
16858	市	540	板材など	木	弥生中期後半～後期前半	—	PEG
16859	市	541	杭	木	弥生中期中頃	—	PEG
16860	市	542	建築部材	木	弥生中期後半～後期前半	—	PEG
16861	市	543	杭など	木	弥生中期中頃	—	PEG
16862	市	544	板材など	木	弥生中期後半～後期前半	—	PEG
16863	市	545	杭	木	弥生中期後半～後期前半	—	PEG
那珂64次(調査番号:9741 市報638集)							
17049	市	152	建築部材	木	中世(12C後半)	35-152	PEG
16960	市	236	櫛	木	古代(9C前半)	40-236	糖アルコール
17050・17051	市	237・238	建築部材(2点)	木	古代(9C前半)	40-237・238	PEG
17052	市	239	楔?	木	古代(9C前半)	40-239	PEG
17053	市	240	建築部材	木	古代(9C前半)	40-240	PEG
17054	市	241	板材	木	古代(9C前半)	40-241	PEG
17055～17057	市	242～244	棒状(3点)	木	古代(9C前半)	40-242～244	PEG
17058・17059	市	245・246	建築部材(2点)	木	古代(9C前半)	40-245・246	PEG
17060	市	247	板材	木	古代(9C前半)	40-247	PEG
17061	市	248	割材	木	古代(9C前半)	40-248	PEG
16961・16962	市	249・250	苜串(2点)	木	古代(9C前半)	40-249・250	糖アルコール
博多103次(調査番号:9754 市報627集)							
17062	市	40001	樹皮	木	中世	—	PEG
17063	市	40002	棒状	木	中世	—	PEG
17064	市	40003	松笠	木	中世	—	PEG
17065	市	40004	楔?	木	中世	—	PEG
17066	市	40005	板材	木	中世	—	PEG
17067～17073	市	40006～40012	木片(7点)	木	中世	—	PEG
16968	市	40301	木簡	木・墨書	中世(12C後半～13C前半)	12-24	糖アルコール
飯氏9次(調査番号:9825 市報654集)							
17074	市	263	角材	木	中世(13C中頃～14C初頭)	26-263	PEG
17075	市	264	編錘	木	中世(13C中頃～14C初頭)	26-264	PEG
博多112次(調査番号:9845 市報632集)							
16963	市	32	漆器椀	木・漆	近世(18C)	9-32	糖アルコール
17076	市	33	下駄	木	近世(18C)	9-33	PEG
17077	市	34	棒材	木	近世(18C)	9-34	PEG
那珂68次(調査番号:9861 市報639集)							
16964	市	219	管状木製品	木	中世	30-427	糖アルコール
16965	市	220	加工材	木	中世	30-428	糖アルコール
16966・16967	市	221・222	祭祀用苜串(2点)	木	中世	30-423・424	糖アルコール
17078	市	223	槌	木	中世	30-429	PEG
17079	市	444	井戸杵	木	中世	—	PEG
17879	市	445	祭祀用苜串(長)	木	中世	—	糖アルコール
17880	市	446	祭祀用苜串(短)	木	中世	—	糖アルコール
元岡12次(調査番号:9902 未報告)							
16712	市		火掻き棒	木	古代	—	糖アルコール
16713	市		送風管	木	古代	—	糖アルコール
立花寺B6次(調査番号:9915 市報702集)							
16865	市	40019	馬の鞍	木	古墳後期	134-947	PEG
那珂73次(調査番号:9948 市報713集)							
16945～16948	市		井戸杵材(4点)	木	中世(13C後半～末頃)	—	真空凍結乾燥
博多120次(調査番号:9952 市報706集)							
16913	市	7502	卒塔婆	木・墨書	中世(13C後半～14C前半)	215-68	糖アルコール
16914	市	7503	卒塔婆	木・墨書	中世(13C後半～14C前半)	215-67	糖アルコール
16915	市	7504	卒塔婆	木・墨書	中世(13C後半～14C前半)	215-69	糖アルコール
16916	市	7505	札状、尺?	木	中世(13C後半～14C前半)	—	糖アルコール
那珂74次(調査番号:9961 市報673集)							
17080・17081	市	30001・30003	松笠(2点)	木	古代	—	PEG
17082	市	30004	扉片	木	古代(8C後半)	13-99	PEG
元岡20次(調査番号:0001 市報743集)							
16708	市	20001	木簡「延暦四年」	木・墨書	古代	9-1	糖アルコール
16709	市	20008	木簡「大寶元年」	木・墨書	古代(飛鳥・奈良)	9-8	糖アルコール
16710	市		舟形木製品	木	古代	—	糖アルコール
16711	市		舟形木製品	木	古代	—	糖アルコール
16733	市		こけし形	木	古代	8-17	糖アルコール

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

(3) 金属製品・その他の遺物

今年度、木製品以外で何らかの作業を行った資料は、30遺跡1,528点に及び、例年に比べ点数が極端に増加している。この理由には以下の2つがある。

当センター保存処理においては、処理番号を付与した時点で処理点数に計上することとしている。木製品は着手時に処理番号の与えられることが多いが、金属製品で特に緊急処置による作業では、出土後バラバラの状態で搬入され、処理後、接合等により点数など内容が変動するため、処理完了後、十分な整理が行われてから番号を付与するケースが多い。今年度は桑原石ヶ元古墳群など、これまで数ヶ年に渡り継続的に処理が行われてきたものが、報告書の刊行という区切りを迎え整理が行われたことにより、処理番号が与えられ作業実績として計上されたことが一つ。もう一つは大量のガラス玉という、細かく数の嵩む資料の保存や分析調査が行われたことによるものである。

内容については別表に示す。また表中に示す作業内容の詳細は次の通りである。

クリーニング：鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅、青銅製品の一部やこれを基調とする金銅製品など、表層の細かい情報を必要とするものは、顕微鏡下でメス等を用いた腐蝕層の除去やアルコール洗浄を行っている。またガラス小玉などは顕微鏡下でアルコールなどを用いた筆洗いを行ない、残留埋土を除去している。

樹脂含浸：いずれもアクリル樹脂を使用しているが、塗膜の厚さ等を考慮し、鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB-72を用いている。内部まで樹脂を浸透させる必要がある資料については50cmHg程度の減圧含浸を実施。

安定化：表中のデータには記していないが、主に銅・青銅製品について、ベンゾ・トリ・アゾールによる塩類の不活性化を図っている。鉄製

品については、内部にメタルが残存し全てが錆に置き換わっていない資料について、脱塩処理を行う場合がある。その方法は、水酸化リチウムのアルコール溶液に長時間漬け込む他、太宰府市文化ふれあい館が所有するオートクレープ式脱塩処理装置を借用して行う場合がある。

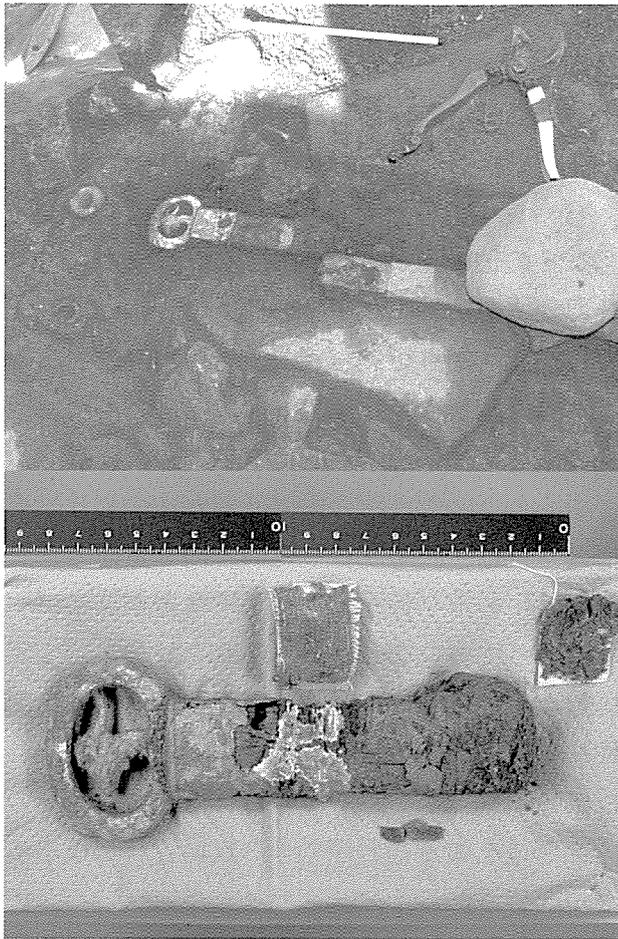
修復：特に強度を必要としないものはセルローズ系、強度を要する場合はエポキシ系の接着剤を使用。

分析：蛍光X線による材質調査等を指す。

なお透過X線観察等基本的な事前調査については、概ね金属製品の全てに対して実施しており、表中には特に記していない。また処理後の資料については特別収蔵庫にて保管している他、必要に応じて脱水、脱酸素の機能を持った薬剤と共に特殊なバリア袋でパックして腐蝕の進行を阻止する方法（三菱ガス化学・RPシステム）での保管を行っている。

今年度は前にも触れたが、桑原石ヶ元古墳群、三苦古墳群B群など後期群集墳のまとまった資料が処理された。特に桑原石ヶ元古墳群では金属器類の数の多さもさることながら、鍛冶工具や飾り大刀、馬具のセットなど市内でも珍しい資料が多数含まれている。石ヶ元古墳群の所在する糸島半島東部地域は、九州大学の移転予定地として発掘調査が進んでいるが、周辺で発見されている製鉄遺跡群や官衙遺跡などと併せて、当該地域における古墳時代末から古代の歴史を考える上で有効な資料になるものと期待される。

また、三苦、石ヶ元両古墳群では、耳環やガラス玉といった装身具類が多数出土しており（三苦古墳群では耳環20点、ガラス玉105点、石ヶ元古墳群では耳環65点、ガラス玉678点）、その保存処理や分析調査を行った。これらの製品は、その言葉が示す以上に様々な材質、製作技法が用いられており、詳細な調査によって製品の歴史的変遷や流通のみならず、それを基にした社会、政治状況の復元といった研究にも寄与すると考えられる資料である。



耳環の中では今年度の成果ではないが、平成12年度に奈良文化財研究所村上隆氏が中心となって行った石ヶ元9号墳出土金製細型耳環の調査で、これまで素材の塊を棒状に加工した後、環状に成形したと考えられていたものが、電子顕微鏡観察によって厚さ $20\mu\text{m}$ 程度の金（と銀の合金）の薄板を数十枚積層して環体を成形した後、仕上げに再び $20\mu\text{m}$ 程の薄板を数枚巻き付けているという、驚くべき製作技法が明らかとなった（村上他2001）。翌年度には石ヶ元古墳群の7点を含む、福岡市内出土の金製細型耳環16点についても調査を広げた結果、石ヶ元9号墳出土例ほど明瞭なものは見られなかったが、いずれも外側に金（と銀の合金）の薄板を巻いている状況が確認された（村上他2002）。これらは材料学的な観点からも注目されると同時に、この技法の系譜なども今後の課題である。

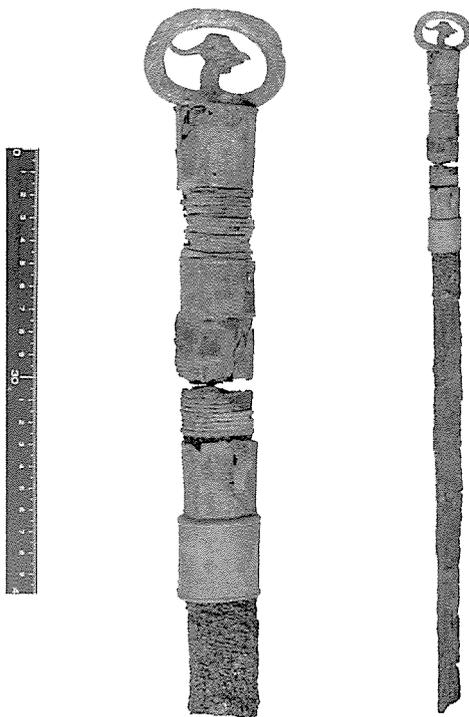


写真4 (上：出土状況・中：着手前・下処理後)
桑原石ヶ元8号墳出土環頭大刀

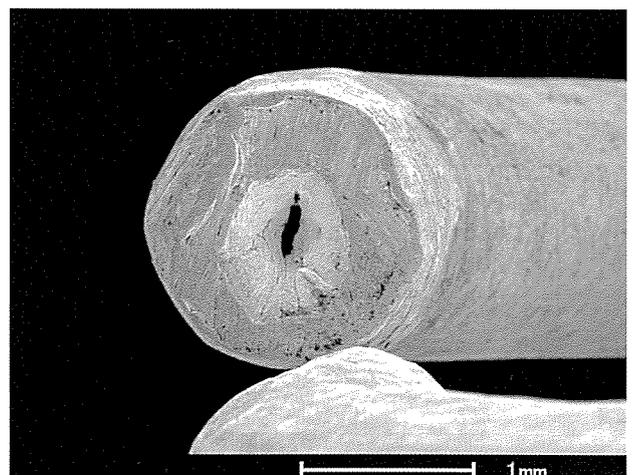
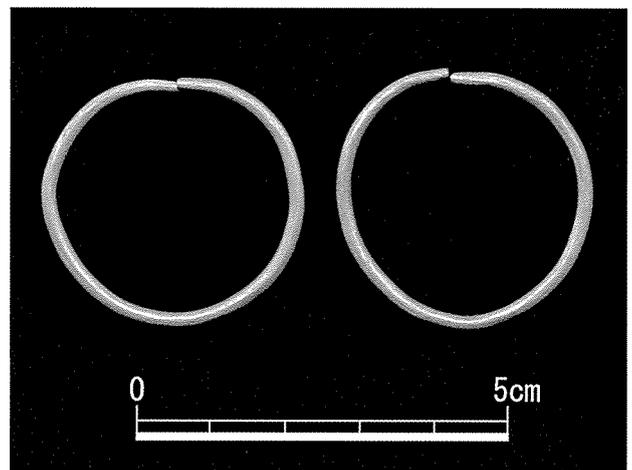


写真5 桑原石ヶ元9号墳出土耳環（上）と
電子顕微鏡写真（下）

またガラス玉では三苦、石ヶ元両古墳群で重層ガラス玉が確認されている。これは内と外、二重構造のガラスの間に金属の箔（薄板）を挟み込んで、本来ガラスでは得られない輝きを醸し出したもので、全国的にも例が少なく有力古墳からの出土が指摘されているほか、西アジアから朝鮮半島を経由した系譜が考えられている資料でもある（長滝2002）。特に三苦古墳群では著しい破壊にもかかわらずこのような資料が出土したことで、本来はかなりの質と量の副葬品を有する有力者であったことが想起される。またこれまでは金色の色調を有するものが多かったことから、金属ガラスやゴールドサンドイッチガラスなどと称されてきたが、三苦古墳群の例では、分析の結果、間の金属部分が銀製で、外側のガラスに黄色の透明ガラスを用いることで金色の発色をさせていることが明らかになっ

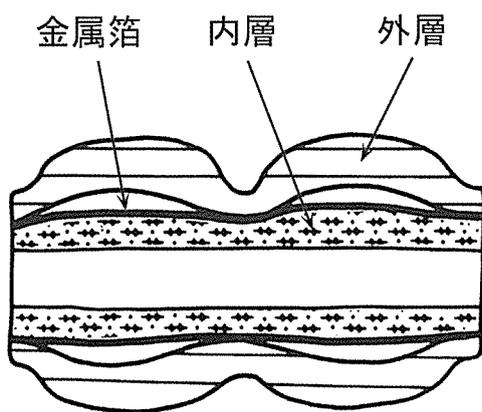
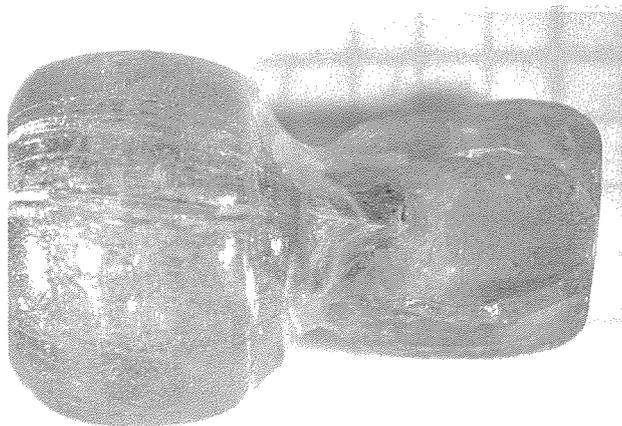


写真6・図1 三苦古墳群B群出土重層ガラス玉（上）と構造模式図（下：長滝2002より一部改変）

ていることもあり、ここでは全てを包括させる意味で、単に重層ガラス玉と記している。

調査結果の詳細については各発掘調査報告書を参照頂きたい（本田2003・松浦2003）。

（4）その他の作業について

埋蔵文化財センターでの作業の他、発掘調査現場での作業も行っている。その内容は表6の通りである。今年度は遺物の取り上げや出土遺物の応急処置に関する対応など、小規模なものが中心となった。その中で元岡22次の製鉄炉遺構の複製は、昨年度行ったのと同じ遺構で、製鉄炉の中心部を掘り下げた地下構造が非常に明瞭に残っていたことから、これを対象として実施したものである。現状では型取り（雌型の製作）が行われたのみであるが、これが完成すれば既に出来上がってる炉の全体像と共に、その内部構造を知ることができる良い資料となることが期待される。

（5）外部からの施設利用

平成11年度に導入された様々な文化財用事前調査機器類は、九州地域の埋蔵文化財関連施設では初めて導入されるものもあり、周辺地域自治体等を中心に利用の問い合わせが多く寄せられてきたため、利用基準（巻末参照）を定め、この範囲内で施設使用を許可する事としている。

今年度は九州歴史資料館、長崎県鷹島町教育委員会、同西海町教育委員会、熊本県教育委員会、同産山村教育委員会など九州各地の自治体の利用があった。外部からの利用は単に施設や機器を使ってもらうことに止まらず、それに際して資料に関する様々な情報や、作業に伴って生じるデータを得ることができる。文化財は現行の行政区分とは結びつかずに流通、使用されていたものであり、本市の文化財を理解するためには自治体の枠を超えての情報交換が必要となるものである。今後も当センターの業務に支障を来さぬ範囲で外部からの利用を受け入れて行きたいと考える。

なお最後になりましたが、今年度も保存処理作業では多くの方々にご指導、ご協力を頂きました。ここに記して深く御礼申し上げます。

[参考文献]

長滝歳康2002「白石第18号古墳のトンボ玉とその提起する問題」『白石古墳群 登所地区・中原地区一団地営白石土地改良総合整備事業関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ-』美里町遺跡発掘調査報告書第13集 埼玉県児玉郡美里町教育委員会
 本田浩二郎(編)2003『三苦4 三苦遺跡群第5次発掘

調査報告』福岡市埋蔵文化財調査報告書第773集 福岡市教育委員会
 松浦一之介(編)2003『元岡・桑原遺跡群2-桑原石ヶ元古墳群調査の報告-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第744集 福岡市教育委員会
 村上隆・比佐陽一郎・片多雅樹2001「細型タイプの金製耳環の材質と製作技法」『文化財保存修復学会第23回大会講演要旨集』文化財保存修復学会
 村上隆・比佐陽一郎・片多雅樹2002「金製細型耳環の製作技法に関する考察」『文化財保存修復学会第24回大会講演要旨集』文化財保存修復学会

表5 平成14(2002)年度保存処理金属器一覧

処理No.	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
博多(店屋町工区) (調査番号:7725 市報105集)						
16969	2311	ガラス埴埴	ガラス	中世	73-106	分析
博多4次 (調査番号:7930 市報543集)						
16970	847	ガラス埴埴	ガラス	中世	102-640	分析・樹脂強化
博多築港線3次 (調査番号:8404 市報204集)						
16906	61504	銅銭(判読不能)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16907	61505	銅銭(紹聖元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16908	61506	銅銭(阜宋通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16909	61507	銅銭(判読不能)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16910	61508	銅銭(政和通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16911	61509	銅銭(元豐通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16912	61510	銅銭(□豐通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16905	61551	銅銭(□宋元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16899	61629	銅銭(祥符通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16900	61632	銅銭(紹聖元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16901	61648	銅銭(政和通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16903	61670	銅銭(聖宋元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16902	61671	銅銭(開元通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16904	61681	銅銭(祥符通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
吉武6次 (調査番号:8416 市報775集)						
18193	35181	袋状鉄斧(大)	鉄	古墳後期	37	クリーニング・樹脂強化・修復
18194	35182	鉄鎌	鉄	古墳後期	37	クリーニング・樹脂強化・修復
18195	35183	袋状鉄斧(小)	鉄	古墳後期	37	クリーニング・樹脂強化・修復
18196	35184	鏝	鉄	古墳後期	37	クリーニング・樹脂強化・修復
18197	35185	ヤリガンナ	鉄	古墳後期	37	クリーニング・樹脂強化・修復
18198	35189	鉄鎌	鉄	古墳後期	48	クリーニング・樹脂強化・修復
18199	35190	鑄造鉄斧	鉄	古墳後期	48	クリーニング・樹脂強化・修復
18200	35191	鑄造鉄斧	鉄	古墳後期	48	クリーニング・樹脂強化・修復
博多26次 (調査番号:8506 市報144集)						
17735	189	湖州鏡(素文)	銅・青銅	中世(13C前半)	未図化	クリーニング・樹脂強化・修復
野方D-1号墳 (調査番号:8738 市報226集)						
17736	148	耳環(錫)	その他金属	古墳後期	未図化	分析・樹脂強化
福岡城址9次(鴻臚館3次) (調査番号:8747 市報270集)						
17737・17738	40002・40003	ガラス容器(2点)	ガラス	古代	11-7・8	分析
今宿3次 (調査番号:8826 市報738集)						
17739~17808	36~105	ガラス小玉(70点)	ガラス	古代末~中世初頭(12C)	未図化	クリーニング・分析
博多62次 (調査番号:8963 市報397集)						
17809	4602	不明片	ガラス	中世	440-10	分析
17810	4604	容器?片	ガラス	中世	440-11	分析
17811	4609	不定形(玉未製品?)	ガラス	中世	440-7	分析
17812	4612	連玉	ガラス	中世	440-8	分析
17813	4631	小玉	ガラス	中世	未図化	分析
雀居4次 (調査番号:9241 市報406集)						
17815・17816	70001・70002	ガラス小玉	ガラス	弥生後期後半?	133-1294・1295	クリーニング・分析
博多80次 (調査番号:9309 市報448集)						
17820	925	鑄型(歡喜天像)	その他	中世	160-655	分析
雀居5次 (調査番号:9317 市報407集)						
17817	40001	ガラス小玉	ガラス	古墳前期		クリーニング・分析
17818	40002	ガラス小玉	ガラス	弥生?		クリーニング・分析
17819	40003	ガラス小玉	ガラス	弥生?		クリーニング・分析

処理No.	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
博多84次 (調査番号: 9423 市報521集)	17083	3075 鉄鍋	鉄	中世	26-3	クリーニング・樹脂強化・修復
博多85次 (調査番号: 9433 市報552集)	17821	4037 鋳型(銭)	その他	中世(15~16C初頭)	P151-図	分析
	17822	9292 銅杓子	銅・青銅	中世	52-22	クリーニング・樹脂強化・修復
	17084	12818 短刀	鉄	中世	47	クリーニング・樹脂強化・修復
西新町9次 (調査番号: 9458 市報505集)	17823	508 錫環	その他金属	古墳中期	49-175	分析・樹脂強化
井尻B6次 (調査番号: 9501 市報529集)	17824	110 青銅付着土器	その他	弥生後期	22-1	クリーニング・分析
雀居9次 (調査番号: 9506 市報635集)	17825・17826	20217・20219 ガラス小玉(2点)	ガラス	弥生~古墳?	150-72・153-144	クリーニング・分析
桑原石ヶ元古墳群 (調査番号: 9656 市報744集)	点数が多いため詳細は割愛する。報告書を参照のこと。					
		各種鉄器(384点)	鉄	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		耳環・馬具等(53点)	銅・青銅	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		耳環・馬具類(16点)	その他金属	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		ガラス玉(678点)	ガラス	古墳後期		クリーニング・分析・樹脂強化
水町古墳 (調査番号: 9755 市報755集)	17827	12 鉄刀	鉄	古墳中期(5C後半)	18-12	クリーニング
	17828	13 鉄鍔束(鉄刀付着)	鉄	古墳中期(5C後半)	18-12	クリーニング・樹脂強化・修復
雀居13次 (調査番号: 9819 市報748集)	17829	5016 ガラス小玉	ガラス	弥生前期後半		クリーニング・分析
	17830	5017 ガラス小玉	ガラス	弥生前期後半		クリーニング・分析
	17831	5018 ガラス小玉	ガラス	弥生前期後半		クリーニング・分析
三苫5次 (調査番号: 0015 市報773集)	点数が多いため詳細は割愛する。報告書を参照のこと。					
		各種鉄器類(118点)	鉄	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		耳環(17点)	銅・青銅	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		錫製耳環(3点)	その他金属	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
		ガラス玉(105点)	ガラス	古墳後期他		クリーニング・分析
今宿五郎江5次 (調査番号: 0055 市報737集)	17832	38 不明鉄器(鑿?)	鉄	弥生中期末~後期初頭	10-38	クリーニング・樹脂強化・修復
博多129次 (調査番号: 0062 市報761集)	17833	獣骨(海獣)	動物遺体	中世(13~14C)	図版9-1~5	クリーニング・樹脂強化・修復
下月隈C7次 (調査番号: 0115 未報告)	17834	人骨(頭蓋)	動物遺体			クリーニング・樹脂強化・修復
	17835	人骨(腕?)	動物遺体			クリーニング・樹脂強化・修復
	17836	鋳型	その他	弥生		クリーニング
有田202次 (調査番号: 0117 市報735集)	17837	20001 内行花文鏡	銅・青銅	古墳前期	8-14	クリーニング・樹脂強化
比恵76次 (調査番号: 0127 市報771集)	17838	30001 鑿?	鉄	古墳前期	6-12	クリーニング・樹脂強化・修復
	17839	30002 不明鉄片	鉄	古墳前期	6-13	クリーニング・樹脂強化
博多133次 (調査番号: 0128 市報764集)	17840	ヤリガンナ	鉄	古墳前期	95-649	クリーニング・樹脂強化・修復
	17841	不明棒状品	鉄	中世	27-237	クリーニング・樹脂強化・脱塩
浦江5次 (調査番号: 0144 未報告)	17842	馬具(鉄地金銅張鏡板?)	鉄	古墳後期		クリーニング・樹脂強化
	17843	馬具(鉄地金銅張?雲珠?)	鉄	古墳後期		クリーニング・樹脂強化
	17844・17845	耳環(銅芯金板貼太環)	銅・青銅	古墳後期		クリーニング・樹脂強化
	17846	銅製_具	銅・青銅	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
	17847	鈴	銅・青銅	古墳後期		クリーニング・樹脂強化・修復
弥永原6次 (調査番号: 0201 未報告)	17848~17862	赤色顔料(15点)	その他	弥生中期後半~末		分析
下月隈C8次 (調査番号: 0219 未報告)	17863	獣骨(馬?)	動物遺体			クリーニング・樹脂強化・修復

表6 平成14(2002)年度現場作業一覧

調査名	調査No.	所在地	時代	作業内容	作業開始	作業終了
1 弥永原6次	0201	南区日佐3丁目	弥生中期末~後期初頭	甕棺・土壘墓顔料のXRF分析及び分析打合せ	20020409	20020409
2 浦江5次	0144	西区金武字浦江	古墳後期	装飾古墳顔料の保存処理打合せ	20020521	20020521
3 浦江5次	0144	西区金武字浦江	古墳後期	出土金属器の保存処理打合せ	20020614	20020614
4 箱崎32次	0224	東区箱崎1丁目他	中世(13C後半~14C)	出土金属器の保存処理打合せ	20020627	20020627
5 井尻B-17次	0027	南区井尻	弥生後期	出土青銅器の保存処理打合せ	20020723	20020723
6 元岡遺跡群各調査	—	西区元岡		出土金属器類保存処理打合せ	20020926	20020926
7 博多小学校	—	博多区		遺構展示の保存処理打合せ	20021002	20021002
8 箱崎33次	0236	東区馬出5丁目	中世	人骨取り上げ	20021002	20021002
9 元岡20次	0001	西区元岡	古墳中期	出土木製品の保存処理打合せ	20021016	20021016
10 比恵79次	0233	博多区山王2丁目		出土木製品の保存処理打合せ	20021016	20021016
11 元岡24次	0034	西区元岡	古代(8C末~9C)	製鉄炉遺構複製	20030116	20030121

桑原石ヶ元8号墳出土の鉛製耳環と

その類例について

今年度の保存処理作業として計上した桑原石ヶ元古墳群では、数多く出土した金属製品に多種多様な耳環が含まれていた。この内8号墳では、発掘調査時に乳白色で全体が粉状に著しく腐蝕した、耳環と考えられる環状金属製品が出土していた。出土状況では辛うじて環状を保っていたものの、脆弱化が著しく、取り上げ後は複数の破片に分割するなど取り扱いが困難なほどの状況であったため、直後に埋蔵文化財センターにおいて、表面に付着した土の除去、アクリル樹脂の塗布による強化、セルロース系接着剤による接合といった保存処置が施され、整理事務所に返却された。しかし、報告書作成段階では所在不明となり、報告書完成後の遺物整理で発見されたことにより、発掘調査報告書には記載されていない。

本資料は、その後の詳細な保存科学的調査により、結果的に耳環としては特殊な素材が用いられていることが確認されたもので、この場をお借りして資料の紹介をさせて頂くと共に、類例資料との文化財科学的な比較検討を試みるものである。

資料は8号墳石室内床面からの出土であるが、床の面数や位置など詳細は不明である。

現状では環体の太さ4～6mm、環全体の復元径は3.5cm程度を計るが、破損や腐蝕のため正確な数値にはほど遠いと思われる。また重量も3.5gを計るがこの数値にも同様のことが言える。

全体が乳白色、或いは淡黄褐色を呈する粉状の腐蝕生成物に覆われるが、部分的に抉れたような腐蝕も見られ、この部分は明灰色である。外観や重量感、過去の出土事例などから、本資料は鉛製の耳環であることが推測されたが、その裏付けと微量成分の確認のため、蛍光X線分析装置による含有元素の分析を試みた。装置は埋蔵文化財センターの微小領域用蛍光X線分析

装置（エダックス社製・Eagle μ probe）を用い、以下の条件で行っている。

対陰極：モリブデン（Mo）／検出器：半導体検出器／印加電圧・電流：40kV・80 μ A／測定雰囲気：真空／測定範囲：0.3mm ϕ ／測定時間300秒

分析の結果、やはり鉛を主成分とすることが確認された。詳細は表8に示すとおりである。

なお、本資料は福岡市埋蔵文化財センター遺物登録番号965630943として登録され、收藏される予定である。

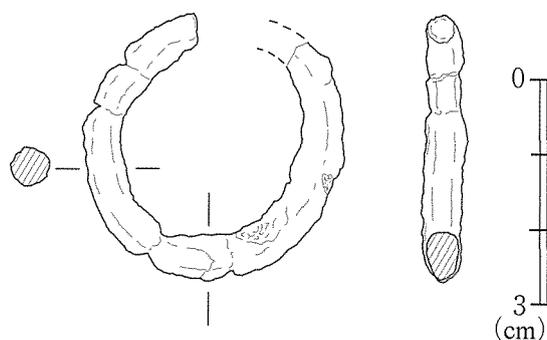


図2 実測図（デジタルトレース）

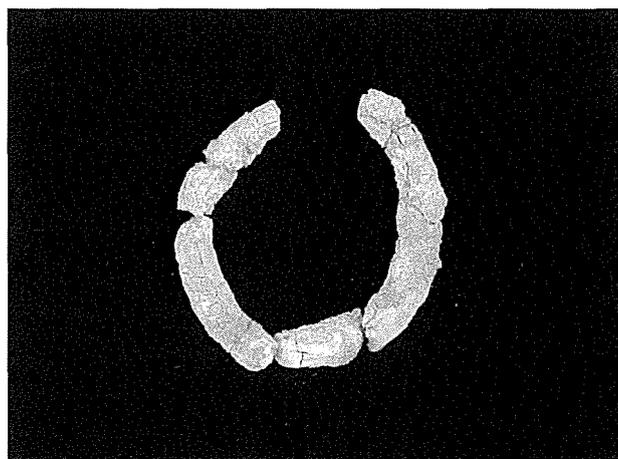


写真7 桑原石ヶ元8号墳出土鉛製耳環

耳環は古墳時代後期に盛行する装身具で、一箇所が開いた環状という、いわゆる視力検査のパターンのようなC字形の形状で、金色や銀色の外観を基本とする。しかしその色調を得るにあたっては、金、銀も用いられるが、これら貴金属節約のためか、銅などそれ以外の素材を用い、より効率よく見栄えのする製品を作る工夫が施されている。これまで出土している耳環を

見る限り、最も多いのは銅を芯材としてその外面に銀や金を様々な方法で加飾したもので、福岡平野の耳環数百点の調査を行った西山めぐみ氏によれば、このタイプが全体の8割近くを占めるという結果が示されている(西山2002)。次いで金、銀、銅を単独で用いる耳環が続くが、その他に特殊な素材として錫や鉛を用いたものも若干例存在する。

錫製耳環については、弥生時代の錫釧も含め、昨年度の年報で福岡市内の出土例を紹介した(比佐2003a)。その後、福岡市内における古墳時代の特殊な材質の耳環として、錫製耳環の遺漏データを加えたものに鉛製耳環を併せ、日本文化財科学会において紹介を行うと共に(比佐他2003)、更にこれに若干の考古学的検討を加えたものを記している(比佐2003b)。ここでは、内容的に他稿とは重複するものの、福岡市埋蔵文化財センターの年報として昨年度の成果を次ぐ意味で、改めて市内出土鉛製耳環の類例と分析結果を掲載する。

いずれも微量成分は含むものの鉛が成分の大部分を占めており、鉛以外の成分を意図的に添加した状況は認められない。このことは錫製耳環において、錫以外に含まれる元素の種類で幾つかのパターンにグルーピングされる可能性が指摘できることと併せ、錫、鉛が素人目には似たような素材でありながら無秩序に混合されるなどということはなく、ある程度の知識を有する工人が計画的に材料を管理していたと考えられるであろう。

また鉛製耳環は特徴的な腐蝕状況を呈しながらも、その判断にはある程度の経験が必要であると同時に、化学分析による裏付けも求められることなどから、保存科学分野を中心として類例に関する情報発信が行われてきた。分析が行われていないものも含めると、全国的には19箇所からの出土が知られている(表9・図3)。

これらの分布域を見ると、北は栃木県で1例あるのみで、更に当時の政治の中心である畿内には分布が見られない。そして兵庫県や岡山県、

また最近では四国香川県で分析による確認がなされた資料が報告されるなど、瀬戸内海を囲む地域に集中する状況が認められる。また本州域ではこれまでのところ錫製耳環とは若干分布域がずれることが想定されているが、唯一福岡平野の周辺のみ、錫、鉛両方がまとまって出土する地域となっている。この状況が特殊な材質の耳環や、更には耳環全体や金工品の生産と流通に対して何らかの情報を与えるものなのか注目されるところである。

しかし現時点では、これら特殊な材質の耳環に対する認識が、過去に類例が多くみられる地域に偏っていて、全国的に認知されていない可能性もあり、研究の広がりによって分布域が変わる可能性も否定できない。これら資料の意義や解釈はとりあえず後回しにして、まず、こまめに情報発信を続け認識を広め、ある程度類例を固めた後でも遅くはないであろう。今後も引き続き注目して行きたい。

[参考文献]

- 成瀬正和1989「わが国上代の工芸材料としての錫」『正倉院年報』11 宮内庁正倉院事務所
- 西山めぐみ2002「金工技術から見た日韓交渉—古墳出土の耳環の材質・製作技法を中心に—」『人類史研究』13 人類史研究会
- 比佐陽一郎2003a「福岡市内出土の錫製品について」『福岡市埋蔵文化財センター年報』第21号 福岡市埋蔵文化財センター
- 比佐陽一郎2003b「錫、鉛製耳環に関する基礎的検討—福岡市内の出土例を中心として—」『古文化談叢』50集(下)九州古文化研究会
- 比佐陽一郎・片多雅樹2003「古墳時代の錫、鉛製耳環について—福岡平野出土の資料を中心として—」『文化財保存修復学会第25会大会発表要旨集』文化財保存修復学会

遺跡名	所在地	墳形	内部主体	供伴遺物	供伴耳環	時期	報告書 (市報集)	遺跡No.	遺物No.	掲載Fig
1 大牟田B-11号墳	南区柏原・大牟田	円	詳細不明	詳細不明	詳細不明	詳細不明	未報告	6911	仮00344	
2 山崎C-1号墳	早良区野芥	円	横穴式石室	須恵器・土師器・玉類・鉄斧・刀子・U字形鋤先・鉄鏃・鉄刀片・弓金具・馬具	銅芯金太環1	6C末～7C前半	380	9263	00202	11-202
3 羽根戸E-2号墳	西区大字羽根戸	円	横穴式石室	須恵器・土師器・鉄斧・刀子・鉄鏃片・鉄鏃	銅芯太環1	6C後半～7C前半	198	8746	20202	12-20202
									20203	12-20203
4 桑原・石ヶ元8号墳	西区大字桑原字石ヶ元	不明	横穴式石室	須恵器・土師器・玉類・刀子・鉄鏃・弓金具・大刀(金銅装環頭大刀含む)・鉄鏃・馬具セット	金細環2・銀細環2・銅芯金太環5・銅芯不明太環1	7C前半～8C	744	9656	30943	未図化

表7 福岡市内出土鉛製耳環一覧

出土遺跡	遺跡 No.	個体 No.	分析箇所		分析条件		鉛のX線強度を100とした場合の各元素のX線強度比				その他の 元素
					kV	μA	鉄(Fe-Kα)	銅(Cu-Kα)	鉛(Pb-Lα)	錫(Sn-Kα)	
大牟田B-11号墳	6911	仮00344	point1	表層剥離灰色部分	40	110	1.03	0.59	100.00	0.11	
			point2	表層白色部分	40	70	0.67	0.83	100.00	0.06	コバルト(Co-Kα)
山崎C-1号墳	9263	00202	point1	表層白色部分	40	80	0.22	0.46	100.00	0.10	0.53
			point2	表層剥離灰色部分	40	80	0.37	0.39	100.00	0.10	0.94
羽根戸E-2号墳	8746	20202	point1	表層白色部分	40	80	0.54	0.22	100.00	0.10	
			point2	表層剥離灰色部分	40	70	0.34	0.57	100.00	0.10	
羽根戸E-2号墳	8746	20203	point1	表層白色部分	40	120	0.58	0.53	100.00	0.11	
			point2	表層白色部分	40	70	1.12	0.48	100.00	0.10	
			point3	表層剥離灰色部分	40	130	0.71	1.77	100.00	0.06	銀(Ag-Kα)
桑原石ヶ元8号墳	9656	30943	point1	表面が抉れ内部が露出した部分	40	80	1.60	—	100.00	—	0.36
			point2	表層腐食層下	40	80	2.49	—	100.00	—	0.28

表8 福岡市内出土鉛製耳環の蛍光X線分析結果

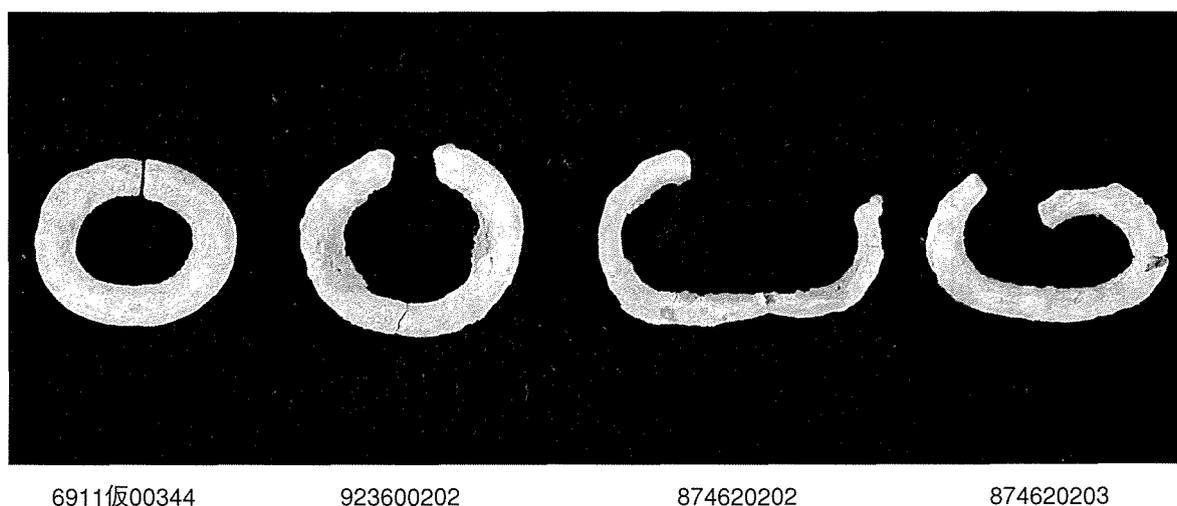


写真8 福岡市内出土鉛製耳環

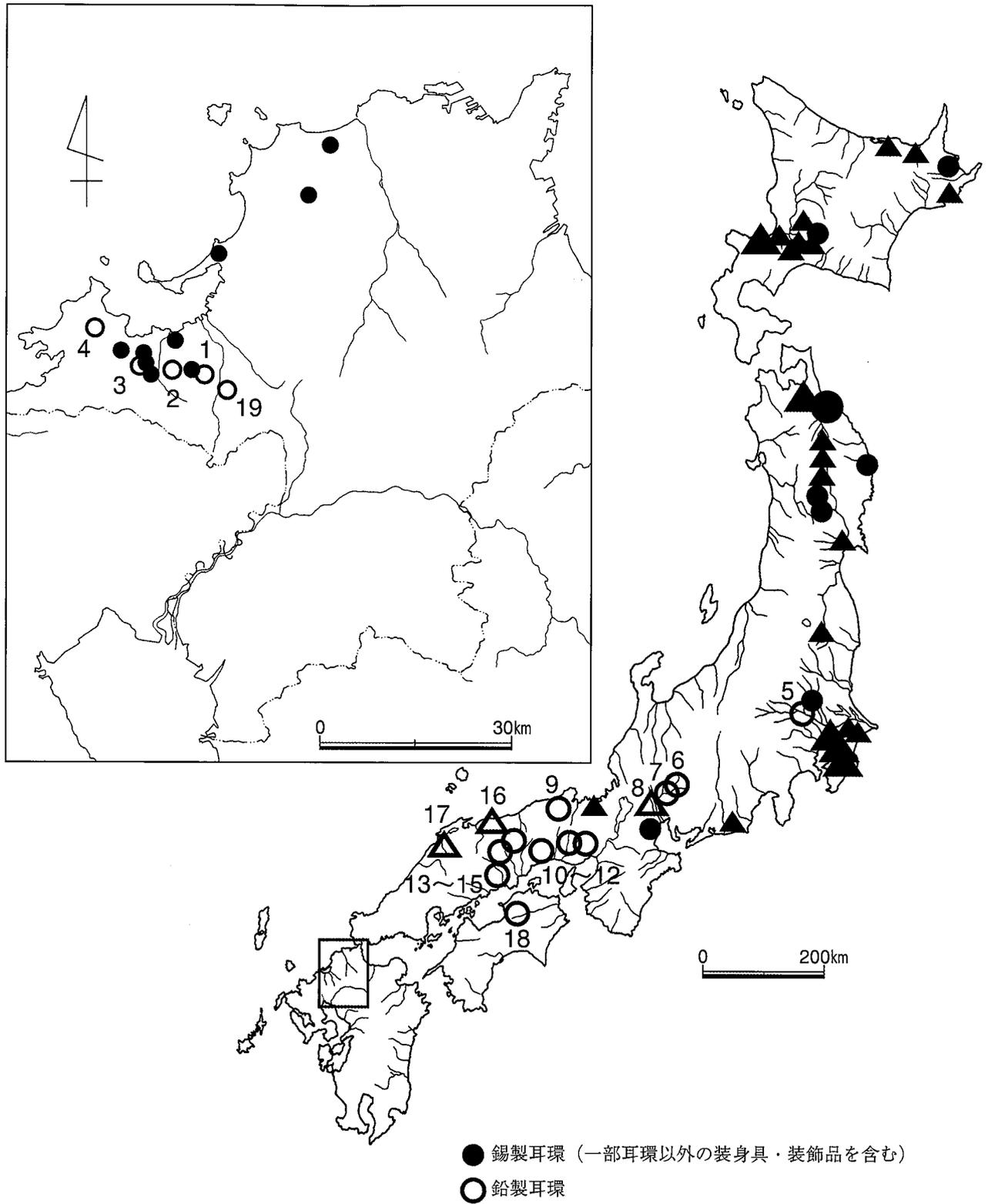
出土遺跡名	出土地名	内容	その他供伴遺物	供伴耳環	時期	備考	分析報告	発掘報告	
5 上原5号墳	栃木県 下都賀郡壬生町安塚字上田	円墳：横穴式箱式粘土埴(室)	鉛製耳環1	○	須恵器・土師器・勾玉・鉄刀片・鉄鏃	無し	6世紀中頃	平尾1988	青木他1989
6 下古井所在古墳	岐阜県 美濃加茂市古井町		鉛製耳環2	○				平尾1999	不明
7 字一本松所在古墳	岐阜県 加茂郡川辺町西柄井		鉛製耳環2	○				平尾1999	不明
8 花岡山古墳群5号墳	岐阜県 大垣市屋敷町字花岡山	不明：横穴式石室	鉛製耳環1	△	須恵器・土師器・勾玉・切子玉・小玉・鉄刀・鉄鏃・刀子	銅?芯金太環6	6世紀後半		中井1992
9 下山王所在古墳	兵庫県 神崎郡市川町鶴居大字美佐		鉛製耳環1	○				平尾1999	不明
10 庄境1号墳	兵庫県 多紀郡丹南町		鉛製耳環3	○			原典は未確認、成瀬1989による		兵庫県1987
11 龍子向イ山1号墳	兵庫県 龍野市揖西町	円墳：横穴式石室	鉛製耳環1	△	須恵器・鉄鏃・刀子・馬具	銅芯金太環8	6世紀末～7世紀初頭		渡辺他1987
12 龍子長山1号墳	兵庫県 龍野市		鉛製耳環2	△			原典は未確認、成瀬1989による		兵庫県1984
13 段林古墳	岡山県 浅口郡鴨方町地頭上	円墳：横穴式石室	鉛製耳環1	△	須恵器・鉄鏃・刀子・砥石・鉄斧・鋤先	銅芯金太環?1	6世紀後半		小林他1998a
14 室尾石生谷古墳	岡山県 苫田郡加茂町大字青柳字石生谷口	円墳：横穴式石室	鉛製耳環1	△	須恵器・石製玉類・短刀・鉄鏃・刀子	銅芯不明太環8	6世紀末～7世紀初頭		小林他1998b
15 中原25号墳	岡山県 真庭郡久世町	円墳：横穴式石室	鉛製耳環1	○	須恵器・小玉・鉄刀・鉄鏃・刀子	無し	6世紀後半～7世紀初頭		平尾他1995 下澤1995
16 服部遺跡36号墳	鳥取県 倉吉市		鉛製耳環1	△			原典は未確認、成瀬1989による		倉吉市1974
17 島田池遺跡4区14号横穴	島根県 八束郡東出雲町出雲郷字岸尾・楯屋字島田他	横穴	鉛?製耳環1	?	須恵器	無し	6世紀後半	報告書には白色の不明金属として掲載	原田他1997
18 北原2号墳第1石室	香川県 善通寺市善通寺町	円墳：横穴式石室	鉛製耳環1	○	須恵器・銀製空玉・ガラス小玉・鉄刀(象嵌鏃)・鉄鏃・刀子・馬具	銀細環2・銅芯銀巻8・銅芯金巻2・銀中空4・銅鍍金中空?1	6世紀後半		村上2003 森2003
19 観音山古墳群中原支群19号墳	福岡県 筑紫郡那珂川町	円墳：横穴式石室	鉛?製耳環2	△	須恵器・土師器・管玉・土玉・鉄鏃・鏃・刀子・鏝?	銅芯不明中細環1	6世紀後半～7世紀初頭		佐藤他1988

(文献※アミ掛けは原本を確認していないもの)

○：分析により確認・△：分析はされていないが外観より認定・?：未確認

青木健二・矢野淳一・中山哲也1989『上原古墳群』日本竊業史研究所
 下澤公明(編)1995『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93 日本道路公団広島建設局津山工事事務所・岡山県教育委員会
 小林利晴・内藤善史(編)1998a『段林遺跡・段林古墳』県道矢掛寄島線改良事業に伴う発掘調査 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告132 岡山県古代吉備文化財センター
 小林利晴・内藤善史(編)1998b『室尾石生谷古墳ほか』主要地方道津山智頭八東線改良事業に伴う発掘調査 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告133 岡山県古代吉備文化財センター
 佐藤昭則・茂和敏(編)1988『観音山古墳群』福岡県筑紫郡那珂川町大字中原所在古墳群の調査』那珂川町文化財調査報告書第17集 那珂川町教育委員会
 中井正幸(編)1992『花岡山古墳群—出土人骨の分析調査報告書—』大垣市埋蔵文化財調査報告書第1集 岐阜県大垣市教育委員会
 成瀬正和1989『わが国上代の工芸材料としての鏃』『正倉院年報』11 宮内庁正倉院事務所
 原田敏照・丹羽野裕・中川寧・藤原尚幸1997『島田池遺跡・鶴貫遺跡』一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区 建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会
 森格也(編)2003『県道観音寺善通寺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北原2号墳・北原遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
 平尾良光1989『上原5号墳出土耳環の科学的調査』『上原古墳群』日本竊業史研究所
 平尾良光(編)1999『古代青銅器の流通と鑄造』鶴山堂
 平尾良光・瀬川富美子1995『岡山県久世町中原25号墳から出土した耳環の自然科学的研究』『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93 日本道路公団広島建設局津山工事事務所・岡山県教育委員会
 渡辺昇・村上賢治他1987『龍子向イ山—山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告7—』兵庫県文化財調査報告第51冊 兵庫県教育委員会
 村上隆2003『香川県北原2号墳から出土した耳環の材質と製作技術』『県道観音寺善通寺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北原2号墳・北原遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
 兵庫県教育委員会1987『庄境1号墳』兵庫県文化財調査報告第41冊
 兵庫県教育委員会1984『龍子長山1号墳』兵庫県文化財調査報告第23冊
 倉吉市教育委員会1974『鳥取県倉吉市服部遺跡発掘調査報告 遺物篇』

表9 全国鉛製耳環出土一覧



丸印（○）は分析により材質が確認されたり、外観により材質が推定されるもの
三角印（△）は材質の確認ができていないが存在が推定されるもの

図3 全国錫・鉛製耳環（装身具類）分布図

3. DNA “おもしろ探検隊” の概要

DNA活動とは

福岡市は、市職員の意識改革をはかる目的でDNA運動を推進している。DNAとは、D：「できる」から始めよう、N：「納得」できる仕事をしよう、A：「遊び心」を忘れずという3項目の頭文字を並べたものである。

当センターでは、展示をとおして埋蔵文化財をアピールする試みとしてDNA “おもしろ探検隊” を企画した。“おもしろ探検隊” は2003年1月よりスタートし、3ヶ月ごとにプチ展示を行う計画である。解説リーフレットに加えて関連ポストカードを配布し、リピータの増加をめざしたい。

活動の趣旨

当センターの年間入場者は平成11年度の増築直後は8,000人前後で推移してきたが近年減少傾向にある。博物館や美術館と施設本来の機能は異なるものの、より多くの市民の利用がまたれるところである。入場者が減少した原因のひとつに埋蔵文化財センター機能の周知化が進んでいないことがあげられる。施設名も、やや堅苦しい。展示や考古学講座、図書の閲覧を連想する人は多くないようである。

DNA2002 “おもしろ探検隊” は、センターの機能のひとつである展示をアピールすること

により入館者の増加を目指す企画である。おもしろとは捉えどころのない言葉のようだが、「多少なりとも好奇心を刺激するもの」と捉えている。初回は一押しの掘出し物を紹介し、来館者が興味の幅を広げられるよう意図した。現在の展示に加えて季節ごとに人目をひくものを展示して市民の関心を高め、入館者の増加につなげたい。

展示計画

平成15年1月より3ヶ月を目処に展示替えや追加展示をする。展示説明は簡潔で、より情報を得たい方のため解説リーフレットを配布する。広報のポストカードを制作と連動させ、3ヶ月ごとに新たな展示があることを印象づけ季節ごとのリピータの確保に努めたい。

平成15年1月からの展示は、雀居遺跡の鉤文様のある甕で弥生土器には珍しい迫力のある造形美をアピールした。



第1展示室入口でのDNA展示



第1回展示で制作したポストカード

4. 教育普及活動

(1) 展 示

当センターでは「埋蔵文化財の保存・保護」と、本市の都市像のひとつである「海と歴史を抱いた文化都市」に則した「弥生以来の海外交易の拠点都市」を展示の主テーマとしている。

第1展示室では、埋蔵文化財の保護と保存をテーマに、発掘調査から遺物・記録類が収蔵、管理・活用されるまでの一連の流れと、木器・金属器等の科学的保存処理の成果を「埋蔵文化財とは何か」・「埋蔵文化財の保存処理」・「埋蔵文化財の修復」・「発掘現場での保存科学的作業」・「埋蔵文化財の収蔵管理と活用」・「埋蔵文化財と考古学」・「旧石器・縄文時代の福岡」の項目で展示している。

第2展示室では、江戸時代に鎖国されるまで日本の玄関口であり続けた本市の特徴をとりあげ、最も脚光を浴びた「奴国の時代」の弥生時代と国内最大の国際貿易港であった「中世都市博多」の時代に焦点をあて、それぞれ「奴国の拠点集落那珂・比恵遺跡」・「奴国以前」・「大型建物」・「環濠・大溝・条溝」・「墳丘墓」・「交流と交易」・「争う」・「祭る」・

「装う」・「つくる」・「まかなう」と「日本の玄関・博多」・「匠」・「鴻臚館の時代」・「海外との交易」・「国内の交易」・「中世博多の情景」・「戦乱」・「たしなむ・あそぶ」の項目でテーマ展示を行っている。

第3展示室は、部門展示室として短期展示を行っており、考古学講座に合わせたテーマ展や特別展・発掘調査速報展などを実施している。平成14年度は下表のとおり4回の企画展示を実施した(表10)。

(2) 講座・展示会

講 座

本年度の考古学講座は、受講者からの開催要望や遺跡捏造問題を受けて「九州・沖縄発掘最前線」をテーマとし、九州・沖縄各県の遺跡の発掘調査成果をもとに、わが国の考古学の現状と課題を掘り下げるべく、それぞれの研究者を招いて8回の講座を開催した(表11)。

発掘調査速報シリーズは、平成14年度に発掘調査が行われた遺跡のうち、重要と思われるものについて速報講演を実施しているもので、本年度は、装飾古墳としては市内で2例目の発見となった「浦江古墳群第1号墳」を含む4回の講演を行った(表13)。

また特別講座は、当センターの平成13年度の保存処理成果について「甦る出土遺物シリーズ.3」と埋蔵文化財課との共催で「福岡市・釜山広域市文化財交流事業シリーズ～弥生編～」の2回の講座を開催した(表12)。



「甦る出土遺物」展示風景(第3展示室)

表10 第3展示室展示会一覧

種 別	名 称	期 間
テーマ展	「九州・沖縄発掘最前線 — 近年発見の遺跡・遺物 —」	H14.4.20～H15.4.17
速報展	「井尻B遺跡」	H14.7.20～H14.9. 1
特別展	「甦る出土遺物—平成13年度保存処理成果展—」	H14.7.20～H14.9. 1
	「平成13年度市指定文化財資料展」	H14.3. 9～H14.4.21

展示会

また、博多駅地下の『えふギャラリー』で博物館実習を兼ね「律令時代の博多」と題して展示を実施した。他に福岡市交通局藤崎駅、環境局西部埋立場事務所、市内小学校8校などの公共施設、民間ビルや養護施設等にも市内出土品展示コーナーを設置している。

(3) 資料の提供

市民・小中学校・各種博物館・大学などの研究機関・出版社・報道関係などの利用希望に対して、考古資料や記録資料を提供している。資料利用は大きく館内利用と館外利用（貸出）に

分けられる。館内利用件数は454件で、その内訳は考古資料の閲覧・実測・撮影などが167件24,119点、記録類・図書閲覧が287件2,037点である。

館外利用（貸出）件数は126件で、考古資料3,150点と記録類等593点の利用があった。その内訳は、1年以上の長期貸出32件、博物館などの展示のための短期貸出94件である。

(4) 研究会の利用

部内および対外の考古学研究会での当館施設利用が30件あった（表14）。

表11 考古学講座 「九州・沖縄発掘最前線」

	開催日	講演内容	講師	受講者数
第1回	H14.4.20（土）	佐賀県・吉野ヶ里遺跡ほか	佐賀県教育委員会 渋谷 格 氏	97人
第2回	H14.5.18（土）	長崎県・原の辻遺跡ほか	長崎県教育庁 高野晋司 氏	97人
第3回	H14.6.15（土）	熊本県・鞠智城址ほか	熊本県教育庁 矢野裕介 氏	101人
第4回	H14.9.21（土）	大分県・大友館跡ほか	大分県教育庁 坂本嘉弘 氏	76人
第5回	H14.10.19（土）	宮崎県・大島島田遺跡ほか	宮崎県埋蔵文化財センター 岩永哲夫 氏	65人
第6回	H14.11.16（土）	鹿児島県・上野原遺跡ほか	鹿児島県教育庁 新東晃一 氏	82人
第7回	H14.12.21（土）	沖縄県・首里城ほか	沖縄県埋蔵文化財センター 安里嗣淳 氏	79人
第8回	H15.2.15（土）	福岡県・古代山城・官衙ほか	福岡県教育庁 橋口達也 氏	95人

表12 特別講座

	開催日	講演内容	講師	受講者数
第1回	H14.8.3（土）	甕る出土遺物. 3 -平成13年度保存処理成果について-	福岡市教育委員会 比佐陽一郎 氏	45名
第2回	H14.11.2（土）	日韓交流・弥生編 -釜山広域市文化財交流事業から-	福岡市教育委員会 横山邦継 氏 久住猛雄 氏	36名

表13 発掘調査速報シリーズ

	開催日	講演内容	講師	受講数
第1回	H14.7.20 (土)	ペールを脱いだ井尻B遺跡 —井尻B遺跡遺跡の調査から—	福岡市教育委員会 屋山 洋 氏	105名
第2回	H14.10.5 (土)	赤彩の装飾古墳 —浦江古墳群第1号墳の調査から—	福岡市教育委員会 蔵富士 寛 氏	34名
第3回	H15.1.18 (土)	元岡桑原遺跡群・鴻臚館跡 —平成14年度の調査から—	福岡市教育委員会 菅波 正人 氏 福岡市教育委員会 大庭 康時 氏	78名
第4回	H15.3.16 (土)	平成14年度遺跡調査総まくり —市域内の調査から—	福岡市教育委員会 力武 卓治 氏 他調査担当者	78名

(5) 図書の閲覧

1階図書コーナーに一般から小学生向けの歴史・考古学関係の図書約470冊を揃えている。ここの閲覧は自由である。2階図書室では市内及び全国の発掘調査報告書と歴史・考古学専門書を主に図書約41,000冊を揃えており、275件の利用があった。

(6) 刊行物

- 『福岡市埋蔵文化財センター年報』第21号 平成13(2001)年度 A4版36ページ。平成15年3月14日発行。文化財関係機関・図書館などに配布。
- 『見学のしおり』(展示案内パンフレット)

B4版3つ折り6ページ。入館者に無料配布。

- 『平成14年度考古学講座案内』A4版2ページ。文化財関係機関・図書館などや入館者に無料配布。

(7) 博物館実習

博物館実習の依頼があったので、以下のように実施した。

- ①実習期間：平成14年7月23日～8月3日までの2週間
- ②実習生：12名（筑波大学第二学群比較文化学類・西南学院大学文学部国際文化学科・同外国語学科・福岡大学人文学部・筑紫女学園大学文学部・

表14 研究会利用一覧

年月日	団体名	利用内容	参加人員
H14.4.5	板付弥生土器を作る会	例会	6名
H14.4.14	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.5.10	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.5.12	板付弥生土器を作る会	例会	9名
H14.6.7	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.6.9	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.6.22	東アジア考古学会	例会	20名
H14.7.5	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.7.14	板付弥生土器を作る会	例会	8名

H14.8. 2	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.8.11	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.8.31	東アジア考古学会	例会	20名
H14.9. 6	板付弥生土器を作る会	例会	4名
H14.9. 8	板付弥生土器を作る会	例会	5名
H14.9.25	埋蔵文化財課技術者会議	例会	15名
H14.10. 4	板付弥生土器を作る会	例会	4名
H14.10.13	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.11. 1	板付弥生土器を作る会	例会	3名
H14.11. 2	福岡考古研究会	例会	5名
H14.11. 3	東アジア考古学会	例会	25名
H14.11.10	板付弥生土器を作る会	例会	6名
H14.11.22	茶入研究会	例会	5名
H14.12. 6	板付弥生土器を作る会	例会	4名
H14.12. 8	板付弥生土器を作る会	例会	7名
H14.12. 9	鴻臚館跡調査研究指導委員会	指導委員会	35名
H15.1.10	板付弥生土器を作る会	例会	5名
H15.2. 7	板付弥生土器を作る会	例会	2名
H15.2. 8	東アジア考古学会	例会	30名
H15.2. 9	板付弥生土器を作る会	例会	6名
H15.3. 9	板付弥生土器を作る会	例会	8名

福岡女学院大学人間関係学部)

- ③実習内容：オリエンテーション（1日）教育普及実習（貸出・展示5日）講義（2日）遺物保存処理実習（2日）収蔵管理実習（2日）施設見学（1日）

実習は、実習生の希望にもとづいて班単位で行ったため日程には重複がある。

(8) 図書関係

①平成14年度図書受入状況

購入183冊（一般57・雑誌126）・受贈2,843冊（一般2,585・雑誌258）
計3,026冊（一般2,642・雑誌384）

②平成14年度末蔵書数

43,757冊（購入8,114・受贈35,643）

③定期受入雑誌

一部受贈を含めて以下の35種である。

（国内発行）URC資料季報・貝塚・古代文

化・季刊考古学・月刊考古学
ジャーナル・古代学研究・ふるさとの歴史と自然・月刊文化財発掘情報・古代学研究所研究紀要・物質文化・考古学雑誌・古文化談叢・文化庁月報・考古学研究・古文化総論・MuseumKyusyhu・古代学研究・カルテベイト・日本研究・信濃・文明のクロスロード・ユネスコ世界遺産・CSN西日本文化・博物館研究・みずほ・九州考古学

（国外発行）朝鮮考古研究・考古学報・考古・考古与文物・故宮博物院院刊・四川文物・中原文物・農業考古・文物

表15 2002年度資料貸出等一覧

番号	受付日	申請者	区分	資料名	点数				貸出日	備考
					許	遺物	写真	係		
1	20020207	焼津市歴史民俗資料館	A	藤崎58号甕棺	2	2	0	0	20020401	常設展示
2	20020214	国立歴史民俗博物館	A	板付・有田・三筑	25	25	0	0	20020401	常設展示
3	20020302	埋蔵文化財課	B	大原D遠景	7	0	7	0	20030202	報告書作成
4	20020306	野多目小学校	A	野多目土器・石器	47	47	0	0	20020401	校内展示
5	20020308	福岡市博物館	A	城ノ原他出土品	1100	1100	0	0	20020401	常設展示
6	20020310	広島県立歴史博物館	A	博多青磁・陶器・墨書	6	6	0	0	20020401	常設展示
7	20020312	福岡市交通局	A	藤崎甕棺	4	4	0	0	20020401	地下鉄藤崎駅常設展示
8	20020312	神戸市教育委員会	A	有田64次甕棺	3	3	0	0	20020401	埋文センター常設展示
9	20020314	柏屋町教育委員会	A	戸原麦尾六花鏡・青磁碗他	44	44	0	0	20020401	町立歴史資料館常設展示
10	20020324	西南学院大学	A	羽根戸原C須恵器	20	20	0	0	20020401	博物館実習教材
11	20020324	横浜地区すみよみ町づくりの会	A	今山石器・土器	18	18	0	0	20020401	自治会館常設展示
12	20020324	大阪府立弥生文化博物館	A	今山石斧他	24	24	0	0	20020401	常設展示
13	20020324	菊池市教育委員会	A	博多陶磁器他	150	150	0	0	20020401	菊池神社歴史館常設展示
14	20020324	リコーテクノシステム(株)九州支社	A	比恵25次土器	3	3	0	0	20020401	社屋ロビー常設展示
15	20020324	新宮町教育委員会	A	石丸古川他夜白式土器	3	3	0	0	20020401	歴史資料館常設展示
16	20020327	協栄福岡年金ホーム	A	唐原土器	6	6	0	0	20020401	館内常設展示
17	20020327	古賀市教育委員会	A・C	藤崎2次40号甕棺	3	2	0	1	20020401	市立歴史資料館常設展示
18	20020327	三苦小学校	A・B	三苦土器・石器他	73	69	3	1	20020401	校内常設展示
19	20020327	名島小学校	A	蒲田・海の中道他土器・石器	28	28	0	0	20020401	校内常設展示
20	20020329	賀茂小学校	A	鶴町(免)土器・石器	36	36	0	0	20020401	校内常設展示
21	20020329	市川考古博物館	A	西新町甕棺	2	2	0	0	20020401	常設展示
22	20020329	徳島市教育委員会	A・B	有田177次前漢鏡他	30	19	11	0	20020402	企画展「よみがえる弥生の墓」
23	20020330	博多区振興課	A・B	博多陶磁器他	39	25	12	2	20020401	まちかど文化ひろば「えふギャラリー」展示
24	20020330	徳島市教育委員会	B	吉武高木他	11	0	11	0	20020425	企画展「よみがえる弥生の墓」
25	20020331	馬出小学校	A	箱崎馬出陶磁器・土器	6	6	0	0	20020401	校内常設展示
26	20020401	板付北小学校	A	板付土器	10	10	0	0	20020401	校内常設展示
27	20020401	東北歴史博物館	A	有田7次弥生土器	1	1	0	0	20020401	常設展示
28	20020403	飛鳥企画	D	今宿五郎江ガラス管玉	1	0	0	1	20020403	京都造形芸大通教テキスト「保存科学概論」
29	20020408	東箱崎小学校	A	箱崎・板付・野多目土器	7	7	0	0	20020401	校内常設展示
30	20020409	埋蔵文化財センター	B	金隈他	3	0	3	0	20020409	講義
31	20020413	谷口憲由	B	金隈・金印他	6	0	6	0	20020413	「福岡市に伝わるむかし話」
32	20020416	福岡市博物館	A	宝満尾・三苦他玉・刀子	24	24	0	0	20020416	体験学習事業「出前講座」
33	20020418	鴻巣館跡調査担当	B	博多埋葬遺構	12	0	12	0	20020418	シンポジウム
34	20020420	中国福建省博物館	B	鴻巣館4次SK38・5次SK80	2	0	2	0	20020423	福建省博物館常設展示パネル
35	20020420	兵庫埋蔵財調査会	D	博多42次・64次・104次銅銭	1	0	0	1	20020423	「中世の出土銭―出土銭の調査と分類」増補版
36	20020422	(株)小学館	E	雀居他土器・石器	1	0	0	1	20020516	「考古資料大観第2・5・9巻」
37	20020423	埋蔵文化財センター	B	鶴崎古墳・比恵6次	11	0	11	0	20020423	講義
38	20020423	(株)小学館	B	小稚他土器・石器・銅鏡	54	0	54	0	20020501	「考古資料大観第2・5・9巻」
39	20020426	(財)能古博物館	B	能古島全景	3	0	3	0	20020427	館内展示パネル
40	20020430	姪浜小学校	A	姪浜3次土器・石器	11	11	0	0	20020430	授業教材
41	20020430	姪浜小学校	A	姪浜3次貝輪他	5	5	0	0	20020430	授業教材
42	20020502	高口館屋ビル	A	博多126次白磁・和同開珎・老司瓦	7	7	0	0	20020502	エントランス常設展示
43	20020507	(株)学習研究社	D	板付石包丁	1	0	0	1	20020507	「アクセス1 社会6年 6号」
44	20020509	吉野ヶ里歴史公園工事事務所	B	吉武高木他	17	0	17	0	20020412	開園記念展「古代北部九州遺跡」
45	20020511	行橋市歴史資料館	E	雀居4次他彩文・貝殻施土器	1	0	0	1	20020511	企画展「貝で飾られた土器」
46	20020511	行橋市教育委員会	A・B	雀居4次他彩文・貝殻施土器他	15	13	2	0	20020517	企画展「貝で飾られた土器」
47	20020514	大規模事業等担当	A・C	元岡柔原24次製鉄炉他	6	1	0	5	20020524	環境賞受賞記念展示会
48	20020515	福岡市博物館	B	博多60次陶出土状況他	10	0	10	0	20020521	部門展「博多を食う・食材と調理具の考古学」
49	20020516	舞松原自治連合会	B	舞松原古墳鉄器他	5	0	5	0	20020516	校区史「わたしたちのまち・舞松原」
50	20020521	文化財整備課	B	吉武遺構・出土A	16	0	16	0	20020521	地元説明会
51	20020521	埋蔵文化財センター	B	井尻B2次	16	0	16	0	20020521	講義
52	20020524	群馬県立歴史博物館	A	藤崎合口甕棺	2	2	0	0	20020401	常設展示
53	20020528	東京国立博物館	A	鴻巣館陶磁器	23	23	0	0	20020401	平成館常設展示
54	20020528	埋蔵文化財センター	B	四箇・野多目	21	0	21	0	20020528	講義
55	20020604	埋蔵文化財課	B	高畑18次道路	35	0	35	0	20020604	研究会発表
56	20020604	埋蔵文化財センター	B	金隈他	17	0	17	0	20020604	講義
57	20020605	福岡市博物館	C	ビデオカメラ	4	0	0	4	20020605	業務
58	20020605	(株)小学館	D	那珂37次二重環濠	1	0	0	1	20020516	「考古学つづれ草」
59	20020606	福岡市博物館	A	博多什器・骸骨	180	180	0	0	20020702	部門展「博多を食う・食材と調理具の考古学」
60	20020608	埋蔵文化財課	A	野芥7次旧石器	3	3	0	0	20020608	現地説明会

番号	受付日	申請者	区分	資料名	点数				貸出日	備考
					計	遺物	写真	他		
61	20020608	吉川弘文館	D	海の中道白磁・青磁	1	0	0	1	20020608	「日本の時代史5 平安京」
62	20020611	(株) 学習研究社	D	板付石包丁・弥生土器	1	0	0	1	20020611	「アクセル1 社会6年マスター号」
63	20020611	埋蔵文化財センター	B	藤崎他	23	0	23	0	20020611	講義
64	20020615	京都府宮津市教育委員会	B	吉武高木3号木棺墓副葬品	1	0	1	0	20020620	「宮津市史-通史編上巻」
65	20020618	埋蔵文化財センター	B	比恵他	23	0	23	0	20020618	講義
66	20020618	京都国立博物館	A	博多天目茶碗	5	5	0	0	20020827	特別展「日本人と茶-その歴史・その美意識-」
67	20020618	京都国立博物館	E	博多天目茶碗	1	0	0	1	20020620	特別展「日本人と茶-その歴史・その美意識-」
68	20020625	埋蔵文化財センター	B	席田青木他	17	0	17	0	20020625	講義
69	20020625	鴻臚館跡調査担当	B	博多人骨出土状況	6	0	6	0	20020625	業務
70	20020625	名護屋城博物館	A・B	柏原K陶磁器他	25	22	3	0	20020626	テーマ展「九州の城-古代から戦国の城-」
71	20020702	橿原考古学研究所 今津節生	D	比恵57次朱	1	0	0	1	20020703	日本文化財科学会19回大会発表
72	20020704	粕屋町立歴史資料館	B	板付水田他	3	0	3	0	20020710	企画展「かすや歴史クイズ館」
73	20020705	埋蔵文化財課	A・B	博多東南アジア陶磁器	33	15	18	0	20020705	研究会発表
74	20020710	埋蔵文化財課	A	立花守B6次須恵器	323	323	0	0	20020710	調査研究
75	20020710	埋蔵文化財課	A	広石古墳群他須恵器	10	10	0	0	20020710	職員採用実技試験
76	20020712	(株) 学習研究社	D	板付石包丁	1	0	0	1	20020712	「マイコーチ中学歴史3号」
77	20020716	埋蔵文化財課	B	有田中世遺構	14	0	14	0	20020716	研究会発表
78	20020716	(有) 高志書院	D	博多埋葬遺構	1	0	0	1	20020717	「中世都市鎌倉と死の世界」
79	20020716	(株) 講談社総合編纂局	B	博多火葬頭骨・大元通宝	2	0	2	0	20020719	「再現日本史」76・77号
80	20020716	朝日新聞社出版局	B	吉武高木全景・3号木棺副葬品	2	0	2	0	20020719	「週刊朝日百科 日本の歴史」38号
81	20020718	文化財整備課	B	今山全景	7	0	7	0	20020718	文化財保護審議会
82	20020720	(株) 吉川弘文館編集第1部	B	博多墨書陶磁他	7	0	7	0	20020725	「日本の時代史」.6
83	20020723	埋蔵文化財センター	B	比恵8次他	11	0	11	0	20020723	講義
84	20020724	文化財整備課	B・C	金武古墳群5次K7号墳	402	0	400	2	20020724	文化財保護審議会
85	20020729	博多区振興課	A・C	博多律令時代A	49	39	0	10	20020731	まちかど文化ひろば「ギャラリー」展示
86	20020730	(株) 山川出版社	D	板付環漆	1	0	0	1	20020801	「日本史リフレット3ー弥生の村ー」
87	20020730	(株) 山川出版社	B	吉武高木3号木棺墓副葬品	1	0	1	0	20020802	「日本史リフレット3ー弥生の村ー」
88	20020803	八尾市歴史民俗資料館	A・B	博多50・59次古式土師器	12	9	3	0	20020808	特別展「卑弥呼の時代と八尾」
89	20020803	八尾市歴史民俗資料館	E	博多50・59次古式土師器	1	0	0	1	20020808	特別展「卑弥呼の時代と八尾」
90	20020808	下関市立考古博物館	A・B	比恵他土器・石器他	38	20	17	1	20020816	企画展「瀬戸内海を介した交流」
91	20020808	大阪市立美術館	A	博多磁州窯系陶器	3	3	0	0	20020917	特別展「白と黒の競演ー中国磁州窯系陶器の世界ー」
92	20020808	大阪市立美術館	E	博多磁州窯系陶器	1	0	0	1	20020917	特別展「白と黒の競演ー中国磁州窯系陶器の世界ー」
93	20020808	共同通信社 福岡支社	B	鷹島出土「てつほう」X線写真他	2	0	2	0	20020810	14年8月配信記事
94	20020809	明治大学教育振興部	B	吉武高木3号木棺墓副葬品	1	0	1	0	20020816	学習教材セミナー「考古学入門」
95	20020816	(株) 小学館	D	板付他石包丁	1	0	0	1	20020820	「考古資料大観第9巻」
96	20020820	福岡市博物館	A	箱崎8次磁州窯鉄絵壺・比恵35次柄付甕	2	2	0	0	20020820	常設展示代替資料
97	20020821	福岡県教育庁筑豊教育事務所	ビデオ	学習教材	2	0	0	2	20020821	文化財指導者研修会
98	20020822	佐藤伸雄	B	西新町他土器	4	0	4	0	20020822	「酒と酒のうつわの歴史」
99	20020822	大阪市立美術館	B	博多磁州窯系陶器	3	0	3	0	20020822	特別展「白と黒の競演ー中国磁州窯系陶器の世界ー」
100	20020827	(財) 根津美術館	B	博多67次唐津花瓶	1	0	1	0	20020827	企画展「知られざる唐津」
101	20020827	(株) 碧水社	B	金隈全景	1	0	1	0	20020829	学習研究社「卑弥呼の時代を復元する第1巻」
102	20020828	福岡市博物館	A	藤崎13次24号甕棺	1	1	0	0	20020911	学習事業「実際に展示物に触る」
103	20020907	埋蔵文化財課	B	博多陶磁器	18	0	18	0	20020907	貿易陶磁研究会発表
104	20020910	(株) 講談社	D	雀居4次木嗽出土状況	1	0	0	1	20020911	『日本の歴史』第1巻「縄文の生活誌 改訂版」
105	20020913	埋蔵文化財課	D	雀居4次A突割函・写真カード	846	0	0	846	20020913	報告書作成
106	20020914	埋蔵文化財課	A	博多陶磁器	12	12	0	0	20020914	貿易陶磁研究会発表
107	20020915	熊本大学埋蔵文化財調査室	A	博多60次土壇・木炭	6	6	0	0	20020915	種子同定・選別
108	20020917	筑紫野市歴史博物館	A・C	雀居他木器	38	34	0	4	20021023	企画展「木の道具」
109	20020917	(株) 学習研究社	D	板付石包丁	1	0	0	1	20020918	「一問一答 中学歴史」
110	20020917	埋蔵文化財センター	B	鶴崎古墳他	6	0	6	0	20020917	講義
111	20020919	埋蔵文化財センター	B	四箇A	39	0	39	0	20020919	講義
112	20020925	福岡市博物館	B	藤崎13次24号甕棺	2	0	2	0	20020925	展示パネル作成
113	20020925	埋蔵文化財課	B	板付他	21	0	21	0	20020925	釜山市交流事業講演会
114	20020926	埋蔵文化財センター	B	吉武高木・吉武樋渡	12	0	12	0	20020926	西区歴史講座
115	20020926	埋蔵文化財センター	B	博多118次	7	0	7	0	20020926	講義
116	20021001	福岡市博物館	C	新沢千塚古墳群	4	0	0	4	20021001	特展資料調査
117	20021003	(株) 小学館	B	宝満尾内行花文鏡	1	0	1	0	20021003	「考古資料大観第5巻」
118	20021004	埋蔵文化財センター	B	吉武樋渡他	36	0	36	0	20021004	講義
119	20021005	木簡学会	B	鴻臚館6次「京都郡甕米」木簡	1	0	1	0	20021008	「続日本古代木簡選」
120	20021005	古賀市歴史資料館	A	比恵33次ココヤシ容器	1	1	0	0	20021101	特別展「漂着物学会福岡大会特別漂着物展」

番号	受付日	申請者	区分	資料名	点数				貸出日	備考
					計	追加	写真	他		
121	20021011	(財) 歴史と自然をまもる会	B	比恵環濠他	2	0	2	0	20021011	機関誌「ふるさとの自然と歴史」
122	20021012	共同通信社福岡支社	B	比恵57次辰砂	1	0	1	0	20021015	14年10月記備記事
123	20021013	埋蔵文化財課	B	博多89次他	11	0	11	0	20021013	市民講座
124	20021015	講談社総合編纂局	B	吉武高木副葬品一括	1	0	1	0	20021017	「週刊・再現日本史第79号」
125	20021015	埋蔵文化財センター	B	壽崎古墳他	30	0	30	0	20021015	講義
126	20021016	鹿児島県歴史資料センター黎明館	A・B	金沢他貝製品	12	5	7	0	20021019	特別展「海を渡った人々」
127	20021017	(株) 学習研究社	D	石包丁	1	0	0	1	20021022	「ニューコース問題集中1・中2総復習社会」
128	20021018	埋蔵文化財課	D	飯二塚1次函面	40	0	0	40	20021018	発掘調査資料
129	20021022	埋蔵文化財センター	B	壽崎古墳他	42	0	42	0	20021022	講義
130	20021101	(株) 講談社	D	突帯文・板付。式土器セット	1	0	0	1	20021101	「講談社選書メチエ・縄文論争」
131	20021101	(株) 北園新聞社	D	博多111次メダイ・銅型	1	0	0	1	20021101	「加賀百万石異聞・高山右近」
132	20021102	(有) ヴュー企画	B	金隈他	7	0	7	0	20021107	「映像考古学」
133	20021105	埋蔵文化財センター	B	鴻臚館	25	0	25	0	20021105	講義
134	20021112	埋蔵文化財センター	B	鴻臚館	31	0	31	0	20021112	講義
135	20021119	中央公論新社	B	博多・鴻臚館陶磁器他	19	0	19	0	20021123	『日本の中世』第9巻「モンゴル襲来の衝撃」
136	20021119	(有) ケー・エヌ・プランニング	B	吉武樋渡75号甕棺	1	0	1	0	20021121	ベトナム・コレクション【ナリン5年生】付録「まんが歴史トナリ」
137	20021122	大阪府立弥生文化博物館	E	板付他土器・石器・木器	1	0	0	1	20021204	特別展「弥生創世記一検証・縄文から弥生へー」
138	20021128	編集工学研究所	B	宝満尾刀子・宮ノ前鋤先	2	0	2	0	20021204	NTT・EI「松岡正剛の高速歴史教室XYZ日本史第1巻」
139	20021203	福岡市博物館	A	博多遊具	18	18	0	0	20021217	部門展「博多の日常」
140	20021204	板橋旺爾	B	吉武高木3号木棺副葬品・板付足跡	5	0	5	0	20021204	学生社「考古学の森」
141	20021209	(株) 学習研究社	D	板付石包丁	1	0	0	1	20021210	学習教材「7x4x1 社会6年」3月号
142	20021210	埋蔵文化財課	B	飯倉D水室	7	0	7	0	20021210	市民講座
143	20021210	講談社総合編纂局	B	博多壺書磁器他	4	0	4	0	20021217	「再現日本史」98号
144	20021210	中央公論新社	B	博多35次中世道路	1	0	1	0	20021212	『日本の中世』第9巻「モンゴル襲来の衝撃」
145	20021218	佐藤伸雄	E	九尾古墳他土器	1	0	0	1	20021218	「酒と酒の器の歴史」
146	20021218	西区まちづくり企画課	B	夫婦塚古墳他	7	0	7	0	20021224	西区「史跡案内サイン」「野方・金武地区パンフレット」
147	20021219	大阪府立弥生文化博物館	B	雀居・板付他	19	0	19	0	20030117	特別展「弥生創世記一検証・縄文から弥生へー」
148	20021224	(株) 大日本印刷アーカイブ・コム	D	捨六町ツジ他木器	1	0	0	1	20021225	早稲田大学教材「日本考古学」
149	20030109	(株) セレブロ	B	金隈全景他	3	0	3	0	20030114	「映像考古学」
150	20030114	福岡市博物館	B	吉武6次110号甕棺内銅劍	1	0	1	0	20030114	部門展「古代のアクセサリー」
151	20030117	滋賀県立安土城考古博物館	A・B	比恵8次・72次	15	8	7	0	20030220	特別展「日経知らず可き王無し一継体大王の出現ー」
152	20030118	鴻臚館跡調査担当	B	鴻臚館4・5次	7	0	7	0	20030118	業務
153	20030121	文化財整備課	A	金隈・野方・板付	174	174	0	0	20020401	金隈・野方・板付展示館常設展示
154	20030124	埋蔵文化財センター	B	吉武S群27号墳	8	0	8	0	20030124	報告書作成
155	20030127	(株) 小学館	B	今宿五郎江他木器	183	0	183	0	20030204	『考古資料大観』第8巻「弥生・古墳時代 木・繊維製品」
156	20030131	文化財整備課	C	液晶投影機	2	0	0	2	20030131	業務
157	20030204	埋蔵文化財センター	B	赤穂ノ浦銅鐸	2	0	2	0	20030204	DNA事業
158	20030208	小都市史編集委員会	B	博多35次道路	1	0	1	0	20030212	『小都市史』第2巻「通史編一中世・近世・近代一」
159	20030208	(株) 至文堂	B	上月限銅劍	2	0	2	0	20030213	『日本の美術』第443号「金工技術」
160	20030210	(株) 学習研究社	B	吉武高木副葬品	1	0	1	0	20030213	歴史群像シリーズ「歴代天皇金史」
161	20030210	(株) あかね書房	B	板付。式セット	1	0	1	0	20030213	「NHKスペシャル日本人はるかな旅・図書館版」
162	20030210	アジアマンス委員会	D	博多輸入陶磁	1	0	0	1	20030212	報告書「アジアマンス2002」
163	20030212	鴻臚館跡調査担当	B	金隈	3	0	3	0	20030212	文化庁記念物課機関誌
164	20030215	大規模事業等担当	B	大原D4次遺構	2	0	2	0	20030215	報告書作成
165	20030218	埋蔵文化財課	B	板付6次他	11	0	11	0	20030218	遺跡説明板改修
166	20030218	福岡市博物館	A・B	東入部他装飾品	11	10	1	0	20030219	部門展「古代のアクセサリー」
167	20030219	埋蔵文化財課	B	雀居4次木器・遺構	87	0	87	0	20030219	報告書作成
168	20030225	太宰府市史編集委員会	B	鴻臚館他木簡	4	0	4	0	20030227	『太宰府市史』「古代資料編」
169	20030225	埋蔵文化財課	B	吉武S群8・27号墳	5	0	5	0	20030225	報告書作成
170	20030226	(株) 至文堂	D	桑原石ヶ元古墳細形耳環	1	0	0	1	20030227	『日本の美術』第443号「金工技術」
171	20030227	(株) 小学館	B	有田64次他土器	46	0	46	0	20030304	『考古資料大観』第1巻「弥生・古墳時代 土器I」
172	20030313	埋蔵文化財課	B	雀居4次木器	1	0	1	0	20030313	報告書作成
173	20030317	発掘された日本列島実行委員会	A・B	鴻臚館鬼瓦・陶磁器等	43	37	6	0	20030228	「発掘された日本列島2003—新発見考古速報展—」
174	20030319	文化庁文化財部美術学芸課	E	雀居・板付土器・石器・木器	1	0	0	1	20030313	海外展「曙光の時代—日本原始・古代展覧会—」
175	20030320	(株) 学習研究社	D	板付石包丁	1	0	0	1	20030322	「6年の学習」5月号別冊「日本の歴史①」
176	20030325	下関市立考古博物館	B	吉武高木	11	0	11	0	20030327	部門展「弥生の墓制—下関市域を中心として—」

5. 入館者数

(1) 入館者総数一覧

区分(日)	4月 25	5月 27	6月 26	7月 26	8月 27	9月 25	10月 27	11月 26	12月 23	1月 23	2月 24	3月 26	合計(人) 305	比率(%)	
個人	一般	133	124	126	145	149	108	114	122	79	123	142	134	1,499	52.4%
	女	73	91	83	77	58	35	36	45	21	23	48	73	663	23.2%
	小計	206	215	209	222	207	143	150	167	100	146	190	207	2,162	75.6%
	小学生	15	24	12	15	23	13	15	18	1	7	5	4	152	5.3%
	中学生	5	9	0	16	9	6	4	5	0	0	0	7	61	2.1%
	高校生	1	2	4	1	2	0	1	0	0	1	0	2	14	0.5%
	大学生	7	31	15	92	89	64	41	21	9	12	17	22	420	14.7%
	その他	1	5	6	3	2	5	3	5	0	2	8	10	50	1.7%
	小計	29	71	37	127	125	88	64	49	10	22	30	45	697	24.4%
	合計(a)	235	286	246	349	332	231	214	216	110	168	220	252	2,859	100.0%
団体	一般	111	192	194	156	121	143	132	175	185	134	356	127	2,026	54.5%
	(団体数)	2	5	6	4	6	5	5	7	9	4	8	5	66	
	小学生	291	463	569	84	0	46	66	0	0	0	0	30	1,549	41.7%
	(団体数)	3	4	4	1	0	1	1	0	0	0	0	1	15	
	中学生	19	0	0	0	0	18	0	14	0	0	0	0	51	1.4%
	(団体数)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	
	高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	(団体数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大学生	0	0	0	32	23	25	0	10	0	0	0	0	90	2.4%
	(団体数)	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	0	0	6	
合計(b)	421	655	763	272	144	232	198	199	185	134	356	157	3,716	100.0%	
(団体数計)	6	9	10	6	8	9	6	9	9	4	8	6	90		
総計(a+b)	656	941	1,009	621	476	463	412	415	295	302	576	409	6,575		
各月一日平均(人)	26.2	34.9	38.8	23.9	17.6	18.5	15.3	16.0	12.8	13.1	24.0	15.7			
開館以降累計(人)	280,064	281,005	282,014	282,635	283,111	283,574	283,986	284,401	284,696	284,998	285,574	285,983			

(2) 個人入館者年齢区分一覧

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
0~19才	23	42	21	36	41	25	24	29	1	10	14	26	292	10.2%
20~29才	30	47	27	112	105	72	44	45	30	23	47	45	627	21.9%
30~39才	33	32	72	58	53	42	29	32	19	40	37	43	490	17.1%
40~49才	53	77	71	60	59	29	43	33	23	44	39	45	576	20.1%
50~59才	57	49	38	61	54	34	45	51	23	35	61	73	581	20.3%
60~69才	26	21	14	18	16	24	19	16	9	14	20	15	212	7.4%
70~79才	12	15	3	2	4	5	9	8	2	2	1	3	66	2.3%
80才以上	1	3	0	2	0	0	1	2	3	0	1	2	15	0.5%
計	235	286	246	349	332	231	214	216	110	168	220	252	2,859	100.0%

(3) 個人入館者住所区分一覧

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
福岡市	139	158	168	216	156	125	129	121	62	113	148	147	1,682	58.8%
福岡県内	46	81	39	92	92	36	32	46	22	22	29	30	567	19.8%
県外	50	46	39	37	84	70	53	44	26	30	38	74	591	20.7%
国外	0	1	0	4	0	0	0	5	0	3	5	1	19	0.7%
計	235	286	246	349	332	231	214	216	110	168	220	252	2,859	100.0%

6. 平成14年度当初予算

(1) 歳入

2,450千円 (国補助金1,912千円、使用料及び手数料111千円、諸収入427千円)

(2) 歳出

95,048千円 (管理運営費73,122千円、事業費21,926千円)

Ⅱ 埋蔵文化財センターの概要

1. 組織と職員

(1) 福岡市文化財行政の組織

教育委員会－教育長－教育次長－文化財部長

文化財整備課	管理係	部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理
	整備係	文化財の指定、史跡の保存・整備
課長	主査	鴻臚館跡の調査担当
埋蔵文化財課	調査第1係	課の庶務、南・城南・早良・西区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	調査第2係	国庫補助事業及び中央・博多・東区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	事前審査係	公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前審査
課長	主査	大規模事業等担当
埋蔵文化財センター	管理係	施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示

(2) 埋蔵文化財センターの職員（平成14年度）

所長 山口 譲治	管理係長 村上 敏文	事務吏員 矢野 昌治	嘱託 片多 雅樹 (保存処理指導員) 柳田 純孝 (専門調査員)
		文化財主事 加藤 良彦	
	主任文化財主事 常松 幹雄	文化財主事 比佐陽一郎	

2. 施設

(1) 施設の概要

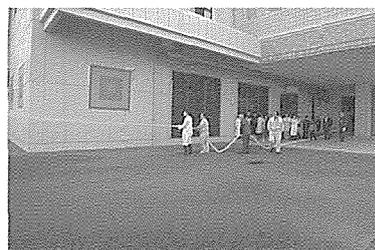
センターは敷地面積4,000㎡、鉄筋コンクリート造3階建（建設面積1,015㎡、延床面積1,992㎡）の規模で昭和57年2月開館した。その後、昭和61年3月に収蔵庫を主とした増築（建設面積1,000㎡、延床面積1,994㎡）を行った。さらに平成9年度から大規模な増築・改造を実施し、平成11年4月にリニューアルオープンの運びとなった。

(2) 施設の保全

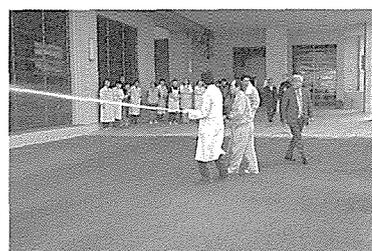
消防訓練

当センターでは、万一の火災に備えて年1回の割合で消防訓練を実施している。平成14年度は、2月21日に職員ならびに警備・受付の担当者を含めて訓練を行った。写真は、新館北側で消火栓から放水を行っている模様である。

災害は日頃の心がけが肝要であることは言うまでもない。消防訓練を通して防災意識を再確認することがもっとも大きな目的である。



消防訓練
風景1

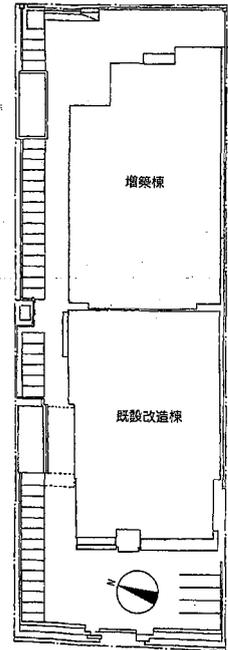


消防訓練
風景2

(2) 主な施設

施設区分	室名	床面積(㎡)
教育普及	第1展示室	167.00
	第2展示室	127.00
	第3展示室	61.00
	研修室	140.00
	図書室・図書コーナ	181.00
	貸出準備室	85.00
	資料閲覧室	58.00
収 蔵	収蔵庫	5,601.00
	特別収蔵庫	547.00
	記録類収蔵庫	192.00
	荷解・搬入室	65.00
	消毒室	23.00

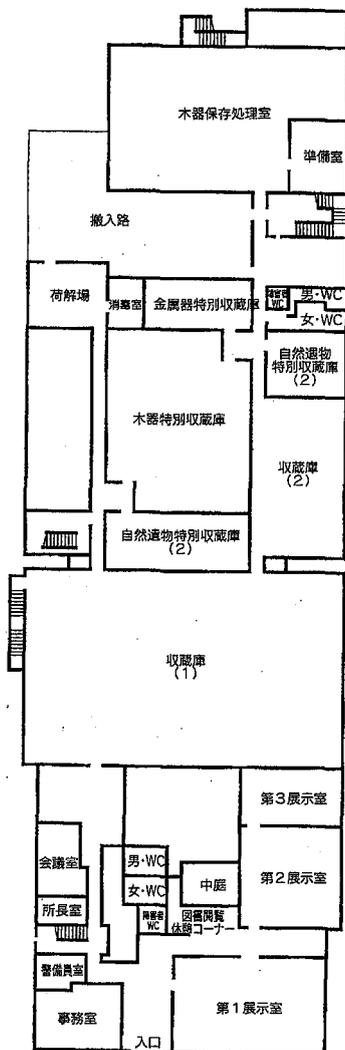
施設区分	室名	床面積(㎡)
保存処理	木器保存処理室	426.00
	金属器処理室	156.00
	分析室	154.00
資料整理	洗浄室	37.00
	資料整理室	235.00
	写場・暗室	63.00
管 理	倉庫	58.00
	事務・会議室等	140.00
	警備・機械室等	258.00
	通路・エレベーター等	1,434.00
その他	疵・トラックヤード等	505.60
	計	10,713.60



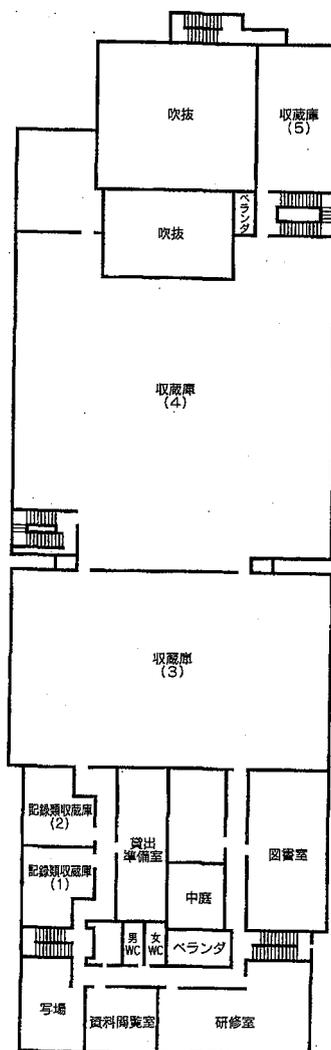
建物配置図 ▶

正面入口

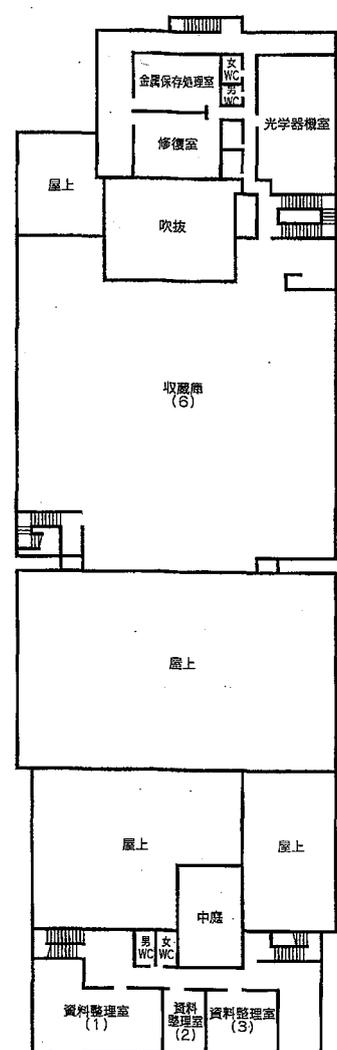
▼ 施設平面図



(1階)



(2階)



(3階)

付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等

福岡市埋蔵文化財センター条例

(昭和56年12月21日
条例第66条)

(設置)

第1条 発掘調査等で出土した考古学的資料(以下「資料」という。)の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を福岡市博多区井田2丁目に設置する。

(事業)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料を展示し、公開すること。
- (3) 資料の専門的調査研究を行うこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、センター設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 センターに所長その他必要な職員を置く。

(入館の制限)

第4条 教育委員会は、次の各号いずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

- (1) センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者

(2) センターの管理上支障があると認められる者(資料の貸出し)

第5条 教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。

(損害賠償)

第6条 資料の観覧者または貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき理由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、交付の日から起算して3月を越えない範囲内において教育委員会規則で定めた日から施行する。

(昭和57年規則第3号により
昭和57年2月22日から施行)

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

(昭和56年1月25日
教育委員会規則第4号)

改正 昭和61年一教規則2、平成4一教規則7、
平成4一教規則3

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例(昭和56年福岡市条例第66号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の事業を行うため、センターに管理係を置く。

(職員)

第3条 センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

2 前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに主任文化財主事及び文化財主事を置くことができる。

3 所長、係長、主任文化財主事、文化財主事は、吏員のうちから命ずる。

4 係長又は主任文化財主事のうちから統括係長を命ずることができる。

5 所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は係りの事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

6 主任文化財主事及び文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。

(職務権限の代行)

第4条 所長に事故がある場合、又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係りに属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化財部長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がいないときは、文化財部長が行う。

(開館時間)

第5条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認められる場合は、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 センターの休館日は次のとおりとする。ただし、教育長は、必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館者の心得)

第7条 センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し又は火

気を使用しないこと。

- (2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。
- (4) 所定の場所以外に立ち入らないこと。
- (5) 職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。

(貸出)

第8条 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育長に提出

しなければならない。

(寄贈等)

第9条 センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員長に申し出なければならない。

2 寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を得て行うものとする。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

保存処理設備機器の外部使用許可基準

1. 基本的使用許可基準

外部に対する保存処理設備機器の使用許可に際しては、下記要件を満たすものであることを原則とする。

- (1) 本市の保存処理業務に支障をきたすおそれがないこと。
- (2) 文化財保護の観点から重要性があり、本市の文化財保護行政に寄与するものであること。

2. その他の許可基準

- (1) 使用は、センター職員の指導・助言のもと、原則として外部担当職員が行うものとする。
- (2) 使用に際して必要となる原材料・作業員等は使用者側(外部)の負担とする。
- (3) 一括委託等請負的な処理は許可しないこととする。
- (4) 民間業者等営利を目的とする団体からの依頼については許可しないこととする。
- (5) 緊急性のある場合や特殊なものを除いて、通常の保存処理については受け付けないものとする。
- (6) 使用に際しては、事前にセンター職員と協議のうえ申請書を提出し、許可を得ることを必要とする。
- (7) 使用にあたってはセンター職員の指示に従うこと。また指示以外の行為により機器を破損した場

合は、使用者側の責任において原状回復すること。

3. 対象機器一覧

本基準を適用する保存処理機器は、別紙一覧表の通りとする。

4. 許可基準の理由(略)

本基準は平成12(2000)年3月1日より施行する。

(別紙) *主な保存処理機器の品名のみを列記

大型PEG含浸槽、一体型PEG含浸槽、真空凍結乾燥機、小型真空凍結乾燥機、有機遺物処理装置、減圧含浸装置、工業用電子天秤、偏光顕微鏡、実体顕微鏡、ビデオマイクロスコープ、赤外線カメラ、画像ファイリング装置、分析用電子天秤、赤外線分水計、大型滑走式マイクローム、蛍光X線分析装置、微小部蛍光X線分析装置、X線回析装置、走査電子顕微鏡、顕微赤外分光光度計、透過X線撮影装置、分析用試料作成装置、マグネチックスターラー、ドラフトチャンバー、精密噴射加工機(エアブラシ)、精密グラインダー、送風定温乾燥機、大型送風定温乾燥機、真空乾燥機、卓上電気炉、純水製造装置、超音波洗浄機、真空デシケーター、攪拌機、真空脱泡用デシケーター、シーラー、バキュームシーラー、ホットエアガン

埋蔵文化財センターにおける有料複写サービス取り扱い要項

(目的)

第1 この要領は、教育委員会文化財部埋蔵文化財センターにおいて、埋蔵文化財センター図書室所蔵の発掘調査報告書等行政資料のサービスを行う際の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(複写サービスの申し込み)

第2 複写サービスの申し込みは、口頭で受けるものとする。

(複写手数料)

第3 複写サービスについては、福岡市手数料条例(昭和35年条例第11号)第2条第2項に基づき実費を徴収するものとし、その複写サービス料金は次の通りとする。なお、手数料については利用者が見やすいところに掲示するものとする。

- (1) 用紙の規格は日本工業規格B列5番からA列3

番までとし、1枚につき10円とする。

(複写手数料の納入等)

第4 行政資料複写の申し込みがあった場合は、申込者に対して複写手数料の金額を告知し、現金による納入を受けた後、金銭登録機で打出した領収票又は現金領収帳による領収書を交付するものとする。

付 則

この要項は平成12年4月5日から施行する。

この要項は平成14年8月1日から施行する。

この要項は平成15年1月7日から施行する。

- 734集 青木4－青木遺跡群第4次調査の報告〔0148〕
 735集 有田・小田部38－有田遺跡群第202次調査〔0117〕
 736集 井尻B遺跡11－市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告Ⅰ 井尻B遺跡第14次調査の報告〔9958〕
 737集 今宿五郎江遺跡Ⅳ（第5次調査報告）〔0055〕
 738集 今宿遺跡2（第3次調査の概要）〔8826〕
 739集 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書16－〔0132〕
 740集 大橋E遺跡5－福岡市南区所在大橋E遺跡第7次調査報告〔0111〕
 741集 大原D遺跡群4－大原D遺跡群第4次・第5次・第6次調査報告縄文時代編〔9518・9729・9901〕
 742集 上月隈B遺跡－一般県道水城下白井線関係埋蔵文化財発掘調査報告書〔0125〕
 743集 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報2－元岡・桑原遺跡群発掘調査
 744集 元岡桑原遺跡群2－桑原石ヶ元古墳群調査の報告〔9602〕
 745集 鴻臚館13－平成13年度発掘調査報告書〔0109〕
 746集 雀居7－福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告〔9609〕
 747集 雀居8－福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告〔9715〕
 748集 雀居9－福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告〔9819〕
 749集 重留村下遺跡2（第2次調査報告）〔0160〕
 750集 下月隈C遺跡Ⅲ－福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第4次発掘調査報告〔9828〕
 751集 外環状道路関係文化財発掘調査報告書17－臼佐遺跡〔0011〕
 752集 外環状道路関係文化財発掘調査報告書18－笠拔遺跡第1・2次調査報告〔0021・0022〕
 753集 外環状道路関係文化財発掘調査報告書19－寺島遺跡第1次調査報告〔0012〕
 754集 外環状道路関係文化財発掘調査報告書20－野多目A遺跡第7次調査の報告〔0014〕
 755集 下月隈鳥越遺跡・水町古墳－（下月隈）第1次・2次・3次調査報告、（水町）第1次調査報告〔9755・9756・9849〕
 756集 那珂33－那珂遺跡群第79次調査報告〔0057〕
 757集 博多86－博多遺跡群第95次調査報告〔9554〕
 759集 博多88－博多遺跡群第125次調査報告〔0023〕
 760集 博多89－博多遺跡群第128次調査報告〔0058〕
 761集 博多90－博多遺跡群第129次調査報告〔0062〕
 762集 博多91－博多遺跡群第130次調査報告〔0102〕
 763集 博多92－博多遺跡群第131次調査報告〔0112〕
 764集 博多93－博多遺跡群第133次調査報告〔0128〕
 765集 博多94－博多遺跡群第136次調査報告〔0149〕
 766集 博多95－博多遺跡群第137次調査報告〔0152〕
 767集 箱崎14－箱崎遺跡第20次調査報告〔9959〕
 768集 箱崎15－箱崎遺跡第24次調査報告〔0047〕
 769集 羽根戸古墳群5－羽根戸古墳群G群25号墳の調査〔0151〕
 770集 比恵31－比恵遺跡群第67次調査の概要〔9907〕
 771集 比恵32－比恵遺跡群第76・第77次調査の概要〔0127・0135〕
 772集 福岡城跡大手門－第48次調査報告〔0129〕
 773集 三苦5－三苦遺跡第5次調査報告書〔0015〕
 774集 麦野A遺跡－麦野A遺跡群第8次調査報告〔0005〕
 775集 吉武遺跡群XV－飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書9〔8335・8416・8535〕
 776集 諸岡B遺跡遺跡20次〔9862〕
 777集 席田青木遺跡5－空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告2〔0107〕
 778集 吉塚8－吉塚遺跡群第9次調査報告〔0130〕
 779集 立花寺5－立花寺遺跡群第5・6次調査報告〔0050・0106〕
 福岡市埋蔵文化財年報Vol.16

福岡市埋蔵文化財センター年報 第22号

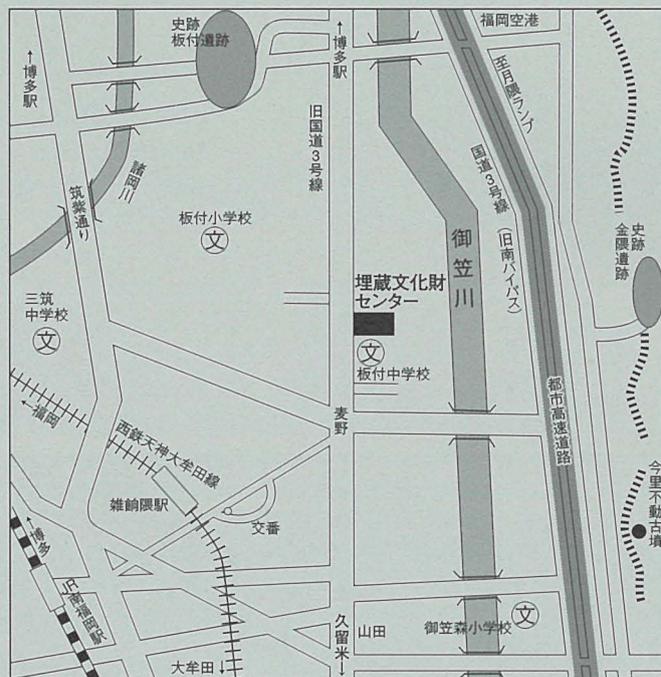
2004年3月25日

発行 福岡市教育委員会
福岡市博多区井相田2-1-94印刷 株式会社 チューエツ福岡工場
福岡市博多区東比恵2-9-1

FUKUOKA CITY ARCHAEOLOGY CENTER

Annual Report

No.22
2004



福岡市埋蔵文化財センター

- 所在地 福岡県福岡市博多区井相田2丁目1-94 (〒816-0081)
- 電話 (092) 571-2921 Fax. (092) 571-2825
- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日・年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料 無料 (ただし団体で見学の場合は事前に連絡が必要)
- 交通手段 ■西鉄天神大牟田線 雑餉隈駅ぞっしよのくまから徒歩15分
- JR鹿児島本線 南福岡駅なんふくおかから徒歩25分
- 西鉄バス 博多駅交通センターから41番雑餉隈営業所行に乗車30分
板付中学校前 (埋蔵文化財センター前) 下車すぐ